



# 貿易・投資二国間マップ

ブラジル - 日本



ジョルジ・ネイ・ヴィアナ・マセド・ネヴェス

長官

アナ・パウラ・ヘパッサ

ビジネスディレクター

フロリアーノ・ペサロ

コーポレートマネジメントディレクター

イゴール・イスキエルド・セレステ

市場情報管理部長 / 監修

ジョアン・ウリッセス・ハベロ・ピメンタ

市場分析コーディネーター

グスタヴォ・フェレイラ・リベイロ

市場アクセスコーディネーター / 監修

クラウディア・ブッコ

マリオ・エルナニ・サアデ・ジュニオル

マウロ・フェヘル・ホシャ・アラウージョ

著者

ミラ・ホシャ

サポート

© 2024 ApexBrasil

ブラジル貿易投資促進庁（ApexBrasil）。出典の明記を条件に、本作のいかなる部分も複製することができます。

本コンテンツは純粋に情報提供を目的としており、ApexBrasil は、これらのデータまたは内容の誤りや記載漏れに基づく意思決定に対する責任を負いません。

本調査を担当した ApexBrasil 市場情報管理部では、皆様のご意見をお待ちしております。ご意見やご提案等ございましたら、[apexbrasil@apexbrasil.com.br](mailto:apexbrasil@apexbrasil.com.br) までメールにてご連絡ください。本調査は、ApexBrasil のウェブサイト（[apexbrasil.com.br](http://apexbrasil.com.br)）でもご覧いただけます。

本調査で使用されている画像は、イメージとして使用されているもので、必ずしも取引される製品の型・種類を表すものではありません。画像は、ApexBrasil が使用および公開の許可を得ているデータベースから抽出されたものです。地図は Bing プラットフォームより作成されました（© Australian Bureau of Statistics, GeoNames, Geospatial Data Edit, Microsoft, Navinfo, OpenStreetMap, TomTom, Wikipedia, Zenrin）。



# 目次

プレゼンテーション.....	5
エグゼクティブサマリー.....	11
<b>第1章 - マクロ経済.....</b>	<b>14</b>
1.1 ブラジルの経済.....	15
1.2 日本の経済.....	18
<b>第2章 - 二国間貿易.....</b>	<b>21</b>
2.1 日本と国際貿易.....	22
2.2 日本の輸出.....	23
2.3 日本の輸入.....	25
2.4 ブラジル-日本貿易.....	27
2.5 ブラジルから日本への輸出.....	28
2.6 日本からブラジルへの輸入.....	31
2.7 日本を対象としたセクター別プロジェクト.....	33
2.8 商機.....	33

<b>第3章 - 二国間直接外国投資</b> .....	<b>35</b>
3.1 世界におけるブラジルと日本の投資の概観.....	36
3.2 グリーンフィールドおよびブラウンフィールド投資.....	38
3.3 インフラ投資.....	39
3.4 ブラジルへの直接外国投資.....	41
3.4.1 世界のブラジルにおける直接外国投資のストックとフロー.....	41
3.4.2 日本のブラジルへの直接外国投資のストックとフロー.....	42
3.4.3 ブラジルでの投資発表.....	45
3.4.4 ブラジルにおける日本の投資発表.....	46
3.4.5 インフラにおける日本の直接外国投資.....	47
3.4.6 ブラジルにおける日本企業.....	49
3.4.7 ブラジルにおける日本企業のケーススタディ.....	51
3.5 日本への直接外国投資.....	58
3.5.1 日本の投資ポジションとフロー.....	58
3.5.2 日本での投資発表.....	60
3.5.3 ブラジルから日本へのグリーンフィールド投資発表.....	61
3.5.4 日本におけるインフラ投資.....	62
3.5.5 日本におけるブラジル企業のケーススタディ.....	63
<b>方法論注記</b> .....	<b>66</b>

プレゼンテーション

## アペックスブラジルのご紹介

### ブラジルと日本：戦略的かつ継続的な関係の拡大

2025 年、ブラジルと日本は外交関係樹立 130 周年を迎えます。友情と協力の歴史を背景に、2024 年にはそれぞれ世界第 8 位と第 4 位の経済大国となり、堅実で革新的な市場を有し、持続可能な開発と国際協力を推進する国々となります。

この段階に至ったのは、私たちの文化の間に形成された強い人的絆によるものです。19 世紀末、最初の日本人移民がブラジルに到着した頃、今日、ブラジル国内の日本人系コミュニティが 200 万人以上、逆に日本に住むブラジル人が 20 万人以上に達するとは、誰も想像できなかったでしょう。

人的要素と利害の一致が、徐々に二国間の経済関係を活性化させました。ブラジルは遅れて産業化を進め、1950 年代末にはトヨタの初の日本国外工場が設立され、その後ウシミナスにおいて当時最大の日本の海外投資が実現しました。1970 年代には、多国籍日本企業がブラジルに進出し、特に金属機械、電子機器、パルプ業界において活動を開始しました。この時期には、熱帯農業の発展を促進するために、ニッポン・ブラジル共同開発プログラム（PRODECER）が実施されました。

最近では、2009 年にルラ大統領の下でブラジル・日本商業・投資促進合同委員会の第一回会合が開催され、その後、ジルマ大統領の下で両国は戦略的・包括的パートナーシップ（2014 年）を締結し、科学技術と革新（CT&I）における協力の深化と二国間の貿易・投資の流れに特別な注意を払っています。

この流れの現状と規模はどのようなもののでしょうか？

2023 年において、日本はブラジルのアジアにおける第二の商業パートナー、世界では第九位のパートナーであり、商品貿易の流れは約 120 億米ドルに達し、過去三年間はブラジル側に黒字が続いています。アジア諸国向けのブラジルの輸出品目が多様化の必要性を有するのと同様に、日本への輸出は主にコモディティや半製品に集中しています。特に、農産物（トウモロコシ、鶏肉、豚肉、コーヒー、大豆）、パルプ、エタノール、鉱物（鉄鉱石、アルミニウム）および生鉄が際立っています。

アペックスブラジルは、日本市場における 300 以上の製品において機会を特定し、食品、飲料、農業、ファッション分野の価値を高め、日本の輸入市場でのシェアを 1.4%から増加させることを目指しています。

一方、私たちの輸入はより多様で、ほぼ全てが自動車部品、化学製品、電子部品、医薬品、機械設備などの高付加価値商品を含んでいます。

日本は、ブラジルにおいて重要な国際的投資家であり、ブラジルはラテンアメリカにおける日本の投資の主要な受け入れ国です。ブラジル中央銀行によると、2022年には日本の投資額は約300億米ドルに達し、日本はブラジルにおける第10位の外国投資国となりました。この金額の半分以上は、私たちの産業発展に寄与する加工産業に投資されています。逆に、バーレとブラジル銀行の活動は、日本に進出したブラジル企業の活力の好例です。

両国間の投資の流れの増加の余地は大いにあります。この動きの一端は、2019年から2023年にかけてブラジルで発表された日本のグリーンフィールドプロジェクトに見られ、30億米ドル以上の投資が行われ、11,000人以上の雇用を生む潜在能力を持っています。これらは主に自動車および食品セクターに集中しています。また、再生可能エネルギー（陸上風力および太陽光発電）や送電に関連するインフラにおいても重要な発表が見られます。一方、ブラジル企業も日本でのプレゼンスを拡大しており、エネルギー、技術、教育に関連したプロジェクトが進行中です。

最後に、外務省の支援を受けて、2025年4月に開幕予定の大阪万博におけるブラジル館の設置が進んでいることをお伝えしたいと思います。当機関は2010年から万博におけるブラジル館を管理しており、今回の万博では200万人以上の来場者が予想されています。これは、私たちのビジネスの可能性と相互補完性を示す大きな機会となるでしょう。

日伯関係を見つめることは、技術、品質、革新において模範となるパートナーとの将来への希望を持つことを意味します。この研究が、ブラジルと日本の間でのビジネス戦略と意思決定の継続的な形成において、非常に重要な役割を果たすことを期待しています。ルラ政権の外交政策の指針に従い、両国間の関係拡大と両国の人々の友好関係の深化に貢献できることを期待しています。

**ホルヘ・ビアナ**

**アペックスブラジル会長**

## 駐日ブラジル大使館あいさつ

日本はブラジルの発展にとり重要かつ歴史的なパートナーです。日本の対伯投資は 1950 年代に始まり、1960 年代から 1970 年代にかけて急激に増加し、アルミニウムやセルロース、鉄鋼などの分野で大規模な投資が行われました。1980 年代から 1990 年代にかけて日本からの対内直接投資は絶対額ベースでは安定していたものの、成長率は鈍りました。2000 年代に入ると日本からの投資は再び成長軌道に乗り、2010 年以降は第一次産業（鉱業）および第二次産業（鉄鋼・金属、機械・設備、運輸）部門が伸び、サービス部門（金融・保険）は縮小しました。

日本貿易振興機構（JETRO）の速報値によると、2023 年の日本の対伯投資フローは 21.5 億ドルです。この実績によりブラジルはラテンアメリカにおける日本の主要投資先として位置づけられ、2022 年末時点での投資残高は約 300 億米ドルに増加しました（出典：ブラジル中央銀行）。一方、この金額はフロー・ストック両面で日本の対外直接投資総額の 1% 強に過ぎません——これは二国間の経済関係を深化できる明らかな兆候です。

ブラジルに投資する日本の投資家の関心は天然資源や製造業に留まっていますが、アグリビジネスや小売業、サービス業など他の分野にも活動範囲を広げています。また、両国にとり戦略分野とされるエネルギーやアーバンモビリティ、ロジスティクス、情報通信技術分野にも関心が集まっています。最近、日系企業はブラジルの自動車部門への外国投資のサイクルに追隨しています。ブラジルに製造拠点を持つすべての日本の自動車メーカー——トヨタ、ホンダ、日産、HPE（三菱自動車とスズキの代理業者）が投資の拡大を発表しました。

逆にブラジルから日本への流れをみると、ブラジルは投資よりも貿易を天職とし、近年一貫して黒字を維持しています。過去 10 年間の平均は年額 7.54 億ドルの黒字でした。とはいえ、ブラジルの対日投資には特記すべき成功例があります。例えば、ヴァーレ社（三重県松阪市の精錬所でニッケル・コバルト製品を扱う）、ブラジル銀行（東京都、静岡県浜松市、愛知県名古屋市の 3 カ所に営業拠点）、シトロスコ社とクトラレ社が愛知県豊橋港で共同運営するオレンジジュースのバルクターミナルなどです。また、シュラスコ料理専門店「バルバッコア」（日本に 9 店舗）や語学学校の「WIZARD」「FISK 外語学院」など、ブラジルブランドのフランチャイズもあります。

ブラジル大使館商務部は対日輸出を希望するブラジル企業に対する支援業務を行っています。潜在的なブラジルの輸出業者に日本市場を理解してもらうことを目的とし、これまでマンゴー、豚肉、牛肉、カジャッサ、ワインとスパークリングワイン、ハチミツと関連商品、ビーチウェア、ペットフードといった商品に関して、幅広い情報を盛り込んだ市場調査レポートの作成を行ってきました。また、日本でのビジネスに関心のある企業を対象に基本情報をまとめた「Como Exportar - Japão（日本向け輸出ハンドブック）」、「Guia Prático para Condução de Negócios no Japão（日本向けビジネスガイド）」の 2 つを定期的にアップデートしています。日本の市場は製

品の品質に対する期待値が非常に高いことに加え、日本企業の方々は対面での交渉を好む傾向があります。そこで、大使館はブラジル貿易投資振興庁（ApexBrasil）との提携や単独の形で、食品業界を中心とした展示会において、ブラジル企業やブラジルの商品を扱う日本企業の出展を支援しています。

日本には優遇措置があり、会社設立の法律も比較的シンプルです。ブラジルの起業家が克服すべき壁は外国人投資家一般にも当てはまるもので、言葉を含む文化の壁、人件費の高さ、長期的ビジョンの必要性、さらに大きな地理的距離があります。しかし日本には、ブラジルの事業家にとってメリットとなりえる大切な特徴があります。両国の言語に堪能な多数の日系ブラジル人コミュニティの存在です。

投資ボリュームはいずれの方向も、日伯関係のポテンシャルをはるかに下回っています。両国の経済には極めて大きな相互補完性があります。さらに、ブラジルと日本は戦略的パートナーです。『ブラジル・日本二国間貿易・投資マップ』の発行に向けたブラジル貿易投資振興庁 (ApexBrasil) との協力は、両国の潜在的可能性をすべて引き出し発展させる互恵的機会を特定する上で極めて重要な意味を持ちます。

両国関係のさらなる強化に期待を寄せるとともに、ブラジルと日本の修好通商条約 130 周年を迎える 2025 年は、持続可能な開発に焦点を当てながら開かれつつある機会の窓を深め、両国の交流を再開する年になると信じております。

**駐日ブラジル大使**

**オタヴィオ・エンヒッケ・ジラス・ガルシア・コルテス**

## ジェトロ理事長からのメッセージ

この度の「日伯二国間投資マップ」の取りまとめを歓迎するとともに、APEX 関係者の尽力に心より敬意を表します。今回まとめられた「日伯二国間投資マップ」は、日伯両国の投資について、過去から学び、今後の方向性を展望するうえで大変有意義な内容であると承知しています。

近年の日伯二国間の投資を振り返ると、2000 年代のブラジルの急速な経済成長に伴い、従来の資源・エネルギー・食糧分野を中心とした投資に加え、拡大する消費市場を目指し、数多くの日本企業がブラジルに進出し、投資を行いました。

さらに、現在においては、世界規模での環境問題への意識の高まりを受けて、多くの日本企業が、エタノールをはじめとしたブラジルの有するバイオ燃料・合成燃料等に関する高いポテンシャルと、日本の最先端技術等を結び付けた脱炭素などの環境配慮型プロジェクトに対し高い関心を寄せています。

2024 年 5 月、岸田総理がブラジルを訪問した際には、エネルギー・脱炭素分野での日伯協力の重要性について議論され、両国間の連携を進めていくことが首脳レベルで合意されました。このように日伯の経済関係は、新たな局面を迎えており、日伯企業による新たな投資活動も期待されています。

加えて、日本企業にとって、ブラジルにおける約 270 万人にのぼる世界最大の日系社会の存在は、企業活動を後押しする大きな力にもなっていることも、日伯間の経済関係を考えていくうえで非常に重要な点であることを指摘しておきます。

ジェトロは、日本の貿易投資振興機関として、ブラジルでの事業展開を希望する日本企業の円滑な活動に向けた支援を行うとともに、日本への投資を希望するブラジル企業に対して必要なサポートを行い、日伯経済関係の更なる発展に貢献して参ります。

**独立行政法人 日本貿易振興機構**

**理事長 石黒 憲彦**

# エグゼクティブサマリー

## エグゼクティブサマリー

ブラジル輸出促進庁（ApexBrasil）、日本貿易振興機構（JETRO）、およびブラジル大使館東京の連携により、「**ブラジル日本貿易投資二国間マップ**」の初版が発表されました。このマップは、両国間の経済的および商業的関係に関する包括的な分析を提供しています。マップは三つの章に分かれています。

**第1章 – マクロ経済**では、ブラジルと日本が世界の主要経済国であることが強調されています。2023 年におけるブラジルの GDP は 2.2 兆ドルであり、IMF によると第 9 位の経済です。一方、日本は 4.2 兆ドルで第 4 位の経済です。また、2014 年以降の両国の GDP の推移や構成、2026 年までの予測も示されています。

**第2章 – 二国間貿易**では、最初に日本のパートナーシップと品目の多様化が指摘されています。輸出品目の上位 10 品目は総輸出額の 50%未満を占め、自動車の販売のみが 10%以上の割合を持ち、日本がこの分野での主導権を示しています。2023 年には、日本は世界**第 5 位の輸出国および輸入国**であり、7200 億ドルの品を輸出し、7860 億ドルを輸入しました。ブラジルとの二国間貿易においては、**2023 年に日本はブラジルの輸出先として第 9 位**であり、輸出額は 66 億ドルです。ただし、ブラジルの日本市場でのシェアは比較的 low、1.4%にとどまっています。加工業（特に鶏肉、アルミニウム、鋳鉄、パルプの分野）が日本市場への輸出の約 46.3%を占め、農業セクター（34.2%）や鉱業（18.8%）が続いています。ブラジルの輸出の主要な発信源は南東部（31%）、特にミナスジェライス州（16.6%）とサンパウロ州（10.2%）ですが、2023 年にはパラ州が 17.4%でトップの輸出州となりました。

**ブラジルの日本からの輸入**に関しては、輸出に比べて集中度が低く、主な輸入品（自動車部品、化学製品、測定器具）は、2023 年には日本からの総輸入額の 28.5%を占めています。本研究では、2019 年から 2023 年の平均年成長率（CMA）で、パルプ・製紙機械（74.5%）が突出しており、この分野のバリューチェーンの重要性が増していることが示されています。また、日本が**ブラジル市場における加工製品の供給者として 10 位に位置づけられている**点にも注目されています。2023 年におけるブラジルの日本からの購入は、南東部が 63.4%を占め、特にサンパウロ州が 49.2%、ミナスジェライス州が 6.9%です。南部地域は 15%の二番目に大きなシェアを持ち、特にパラナ州が 9.3%を占めています。他の地域では、アマゾナス州（9.9%）を除き、北部、北東部、中央西部の州は 4%を超えるシェアを持つことはなく、上位 5 位の購入者には入っていません。

続いて、本研究では、ApexBrasil が日本をターゲットとした 8 つのセクター別プロジェクトを示しています。対象セクターは、食品、飲料、農業、ファッション、マルチセクターです。次のセクションでは、日本市場でのブラジル輸出業者向けに 336 品目（HS6）の大きなグルーピングを特定し、約 1930 億ドルの輸入機会を提示しています。機会のある製品には、自動車部品、医薬品、鉱石、小麦などが含まれており、ブラジルと日本の商業関係の複雑さと成熟度を示しています。

**第3章 – 投資**では、UNCTAD のデータに基づき、日本が世界第 6 位の投資国であり、2023 年には国外における直接投資のストックが 2.13 兆ドルであることが示されています。ブラジルでは、2022 年に日本のストックが 295 億ドルで、全体の 1.02 兆ドルの中で日本は第 10 位の投資国となっています。ブラジルの日本への投資ストックは 341.2 百万ドルで、日本のブラジルへの投資と比較すると、それぞれの経済の特性、すなわち日本が大規模な輸出国であり、ブラジルが資本の受け入れ国であることが反映されています。

流れの観点から見ると、ブラジルは 2023 年において世界第 5 位の FDI の受入先であり、UNCTAD によれば 659 億ドルの流入がありました。2023 年には、ブラジルはラテンアメリカにおける日本の投資流入の主要な受取国であり、Bank of Japan によると、2.2 億ドルに達しました。さらに、2019 年から 2023 年の間に、Orbis および Fitch のデータに基づいて、ブラジルにおける日本のグリーンフィールドプロジェクトが 65 件、合計 32.5 億ドルに達していることが明らかになりました（主に自動車および食品セクター）、また、2000 年以降のインフラプロジェクトが 5 件、風力発電、港湾、ターミナルを含んでいます。

最後に、この版のマップには、日本からブラジルへの投資およびブラジルから日本への投資における成功事例が含まれています。受け入れ投資の方向において、以下の企業がブラジルでの経験とその決定要因を共有してくれました：トヨタ（自動車）、三井物産（エネルギー、石油・ガス、鉱業、輸送・物流、食品、小売、冶金・鋼鉄、デジタルトランスフォーメーション）、クラウドエース（テクノロジー）。ブラジルから日本への投資に関しては、バーレイ（鉱業、物流、エネルギー）が日本における軌跡を共有しました。

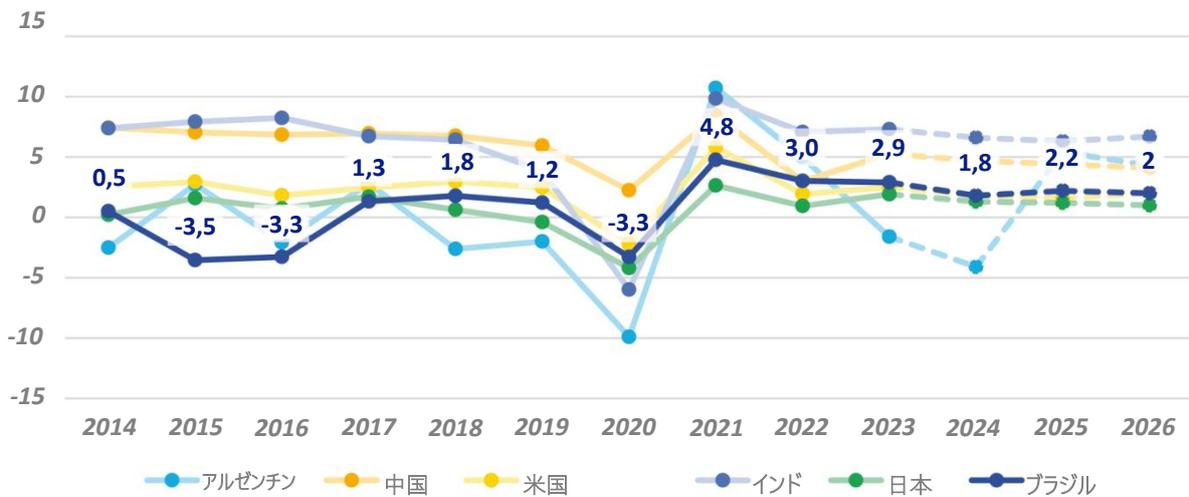
# 第1章 - マクロ経済

## 1.1 ブラジルの経済

2023年のデータによれば、ブラジルの国内総生産（GDP）は2.2兆ドルであり、エコノミスト・インテリジェンス・ユニット（EIU）によると、ブラジルは世界で第9位、ラテンアメリカで第1位の経済国です。2020年には、COVID-19の初期経済影響により3.3%の減少を経験したものの、ブラジル経済は2021年に4.8%の実質成長を遂げました。この成長は、政策的な対応として金利の引き下げ（セリック金利を2%に）を実施したことが寄与しました。この金利は21世紀で最も低いものです。

ただし、インフレ圧力（2021年の消費者物価指数は10.06%）により、2021年および2022年にセリック金利が急速に引き上げられたにもかかわらず、ブラジルは2022年に3%、2023年には2.9%の成長を実現しました。これは、商品価格の上昇が要因となっています。2022年には、ブラジルはすでに2019年のGDPを上回っており、パンデミック前の水準に復帰しました。2023年には、ブラジルの農業部門が記録的な収穫を上げ、セリック金利が下がり始めたことが、予想以上の実質GDPの成長に寄与しています。2019年から2023年の間、ブラジルのGDPは年平均1.8%の実質成長を遂げました。

グラフ1- ブラジルおよび選定された国々の実質 GDP 成長率（%）



出典: Economist Intelligence Unit.

2023年、ブラジルの実質GDP成長率は2.9%であり、世界のGDP成長率（2.6%）を上回りました。この成長率は、アルゼンチン（-1.6%）をはじめとするいくつかの隣国や、アメリカ合衆国（2.5%）や日本（1.9%）などの重要な経済パートナーよりも高いものでした。一方で、ブラジルの他のパートナーである中国とインドは、それぞれ5.2%と7.3%のよりダイナミックな成長を示しています。グラフ1は、ブラジルの実質GDP成長と、上記の国々の成長を比較しています。

また、特にブラジルの経済成長予測値は、大きな変動を示しており、毎月大きく変わることが多い点も注目に値します。ブラジルの GDP は、ここ数年、年初の予測を頻繁に上回っています。中央銀行と財務省の 9 月の推計によると、ブラジルの経済は 2024 年に 3.2%成長する可能性があります。

ブラジルは世界で 7 番目に人口が多い国であり、2022 年の IBGE による人口センサスでは 2 億 3,100 万人とされています。この大きな人口により、ブラジルの一人当たり GDP は中間的な位置を占めており、世界で 87 位となり、10,325.60 ドルという EIU の推計値が示されています。同様に、2019 年から 2023 年間のブラジルの一人当たり GDP の実質成長率は 1.3%であり、GDP の成長率よりも遅くなっています。この遅れは、主に COVID-19 の経済的影響によるもので、特に 2020 年には生産が損なわれ、一時的に中断されたためです。一方で、人口は成長を続けていました。ブラジルの高齢化社会は予想以上に早く進行しており、2022 年のセンサスによると、65 歳以上のブラジル人は 2200 万人以上（総人口の 10.9%）であり、2010 年から 57.4%増加しています。

ブラジルの GDP は主に内需で構成されています。2023 年において、民間消費は GDP の主な構成要素であり、その割合は 63.3%と前年と同程度です。一方で、GDP に対する投資の割合は 16.1%に減少し、2020 年と同水準になりました（2020 年は 16.2%）。これは、2021 年（19.7%）や 2022 年（18.1%）と比較して、顕著な減少を示しています。これらの年は、2020 年の経済の減速の影響で、在庫や固定資本の形成がより活発だったことが背景にあります。

グラフ 2 - 2023 年のブラジルの GDP 構成（%）



出典: Economist Intelligence Unit.

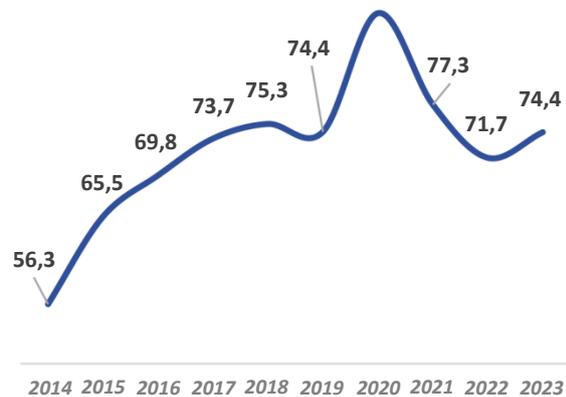
政府支出の割合は、2020 年に 20.1%に達した後、引き続き減少傾向にあります。これは、COVID-19 パンデミックに対処するための国家介入の必要性によるものでした。EIU（エコノミスト・インテリジェンス・ユニット）によると、政府支出は 2020 年にピークに達し、その後 18.5%（2021 年）、18.3%（2022 年）、18.2%（2023 年）と連続して縮小しました。しかしながら、[新しい成長加速プログラム](#)（Novo PAC）は、今後数年間で 1.7 兆リアル（2026 年までに 1.4 兆リアル）の投資を行うことを見込んでおり、これは、保健、インフラ、教育、防衛、デジタル包摂といったさまざまな戦略的分野に及びます。したがって、中期的には、政府支出の GDP に占める割合が再び増加する可能性があります。

<sup>1</sup>人口ボーナスとは、働き盛りの人口（15歳から64歳）の割合が、経済的に依存しているとされる若年層（14歳以下）および高齢者（65歳以上）の割合に対して増加する際に生じる機会の窓口を指します。

<sup>2</sup>国内需要は、民間消費、政府支出、および投資の合計として定義されます。

資本流入の誘致は、国内の金融政策の手段に関連する点であり、ブラジルのマクロ経済において一貫して肯定的な要素となっています。2023年には、ブラジルはUNCTADによると世界で5番目に多くの外国直接投資（FDI）を受け入れ、過去最高の660億ドルに達しました。OECDのデータと方法論によれば、2023年にブラジルは世界で2番目に多くのFDIを受け入れ、アメリカに次ぐ規模でした。これらの結果は、ブラジル経済がグローバルな投資の誘致において非常に強い競争力を持っていることを示しています<sup>3</sup>。

グラフ3 - ブラジルの公的債務/GDP比率 (%)



出典: Economist Intelligence Unit.

最近、国民議会で承認された税制改革と、連邦政府による基礎的財政収支の赤字をゼロにする目標は、中期的にブラジルの公的債務の持続可能性に寄与する可能性があります。さらに、2023年のインフレ率が4.62%に低下し、国民金融会議の目標範囲内に収まったことで、セリック金利のさらなる引き下げが予想されており、ブラジルの経済成長を促進し、金利費用の削減によって公共財政の安定化にも寄与するでしょう。本研究<sup>4</sup>の作成時点における市場の予測（ブラジル中央銀行のデータによる）は、2024年と2025年のセリック金利をそれぞれ11.25%と10.5%、インフレ率を4.35%と3.95%としています。したがって、金利は依然として高水準にとどまり、資金流通が抑制され、企業による投資のための借り入れが抑制される傾向にあります。

資本流入の誘致は、国内の金融政策の手段に関連する点であり、ブラジルのマクロ経済において一貫して肯定的な要素となっています。2023年には、ブラジルはUNCTADによると世界で5番目に多くの外国直接投資（FDI）を受け入れ、過去最高の660億ドルに達しました。OECDのデータと方法論によれば、2023年にブラジルは世界で2番目に多くのFDIを受け入れ、アメリカに次ぐ規模でした。これらの結果は、ブラジル経済がグローバルな投資の誘致において非常に強い競争力を持っていることを示しています。

<sup>3</sup> Economist Intelligence Unit.

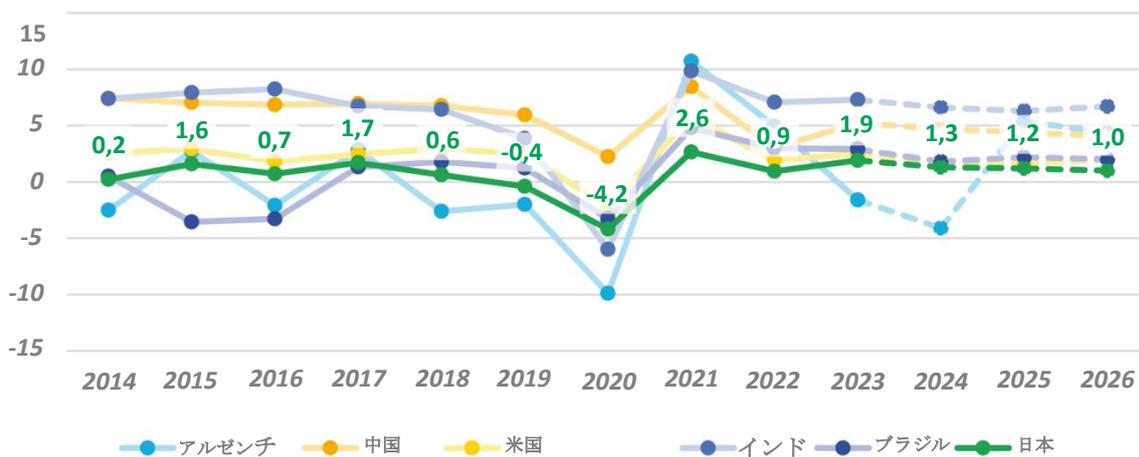
<sup>4</sup> 2024年9月に本段落を作成いたしました。

## 1.2 日本の経済

日本は世界最大級の経済大国であり、機械設備、車両、電子機器などの高付加価値製品の主要な生産国および輸出国です。2023 年における名目 GDP（4.2 兆米ドル）は、アメリカ、中国、ドイツに次ぐ世界第 4 位となりました。この順位は円安の影響によるものであり、実質的な経済成長が原因ではありません。むしろ、EIU によると、2023 年にはドイツ経済が 0.1%縮小した一方で、日本経済は 1.9%成長しました。したがって、近い将来、日本の名目 GDP が再びドイツを上回る可能性があります。これは、2024 年 3 月に日本銀行（BOJ）が 17 年ぶりに政策金利を引き上げたことにより、円が再び高く評価される可能性があるためです。BOJ は、2016 年以來続いていたマイナス金利政策を、デフレの脅威を背景に終了し、物価と賃金の徐々に上昇する状況を受け、2024 年 3 月に金利を 0~0.1%に設定して、超緩和的な金融政策の正常化を開始しました。そして 7 月 31 日には、BOJ は公式声明に基づき、金利を「約 0.25%」に再度引き上げました。

日本の実質 GDP 成長率（1.9%）は世界平均（2.6%）を下回っているものの、過去数年間で最も高い水準のひとつであり、2021 年の成長率（2.6%）を除けば、他の年を上回っています（グラフ 4 参照）。日本の成長率を上回る国には、ブラジル、中国、アメリカ、インドなどの主要な貿易相手国が含まれます。また、2019 年から 2023 年の日本経済の平均年間成長率は 0.3%と控えめでした。2020 年の大幅な縮小（-4.2%）は、輸出大国である日本が深く組み込まれている世界的なサプライチェーンに COVID-19 が与えた影響によって、さらに悪化しました。

グラフ 4 - 日本および選定された国々の実質 GDP 成長率（%）



出典: Economist Intelligence Unit.

<sup>5</sup> Economist Intelligence Unit – One-click report: Japan | | 2024 年 5 月 1 日。

<sup>6</sup> [Japan: BOJ hikes interest rates for the first time in 17 years | AP News.](#)

<sup>7</sup> [https://www.boj.or.jp/en/mopo/mpmdeci/mpr\\_2024/k240731a.pdf](https://www.boj.or.jp/en/mopo/mpmdeci/mpr_2024/k240731a.pdf)

日本の長期的な経済成長にとってもう一つの潜在的な課題は、急速に進む人口の高齢化です。日本は世界で12番目に人口の多い国ですが、EIUによれば、2023年には1億2330万人のうち30.1%が65歳以上であり、日本は世界で最も高齢者の割合が高い国となっています。また、2023年には世界で4番目に低い出生率を記録しており、この高齢化は2010年に1億2810万人でピークに達した日本の人口減少に拍車をかけています。高齢化は年金や医療費の増加をもたらすだけでなく、日本の消費市場や経済成長の潜在力に制約を与える可能性があります。しかし、日本は「老いる前に豊かになる」ことに成功しており、2023年には1人当たりGDP（3万4100米ドル）が世界で35位となっています。

2023年の日本経済において内需は、ブラジルよりもさらに重要な役割を果たしており、日本のGDPの101.6%を占めました。これは、日本が財・サービスの純輸入国であり、GDPの1.6%に相当する貿易赤字があったためです（グラフ5参照）。EIUによると、日本のGDPの主要構成要素は民間消費（54.5%）ですが、2019年以降、比較的安定しており、ブラジル経済における割合よりも低い水準にとどまっています。民間消費の刺激は日本にとって大きな課題のひとつであり、長年にわたる賃金の伸び悩みによる消費の停滞が、より高い持続的経済成長の達成を困難にしています。しかし、EIUによれば、2024年3月に行われた春闘（shunto）の交渉では、大企業の労働者に対して過去33年間で最大の賃上げが実現しました。このような状況下で、日本銀行（BOJ）が示唆している、物価と賃金の漸増による「好循環」は、日本経済にとって前向きな兆しである可能性があります。

グラフ5 - 2023年の日本のGDP構成（%）



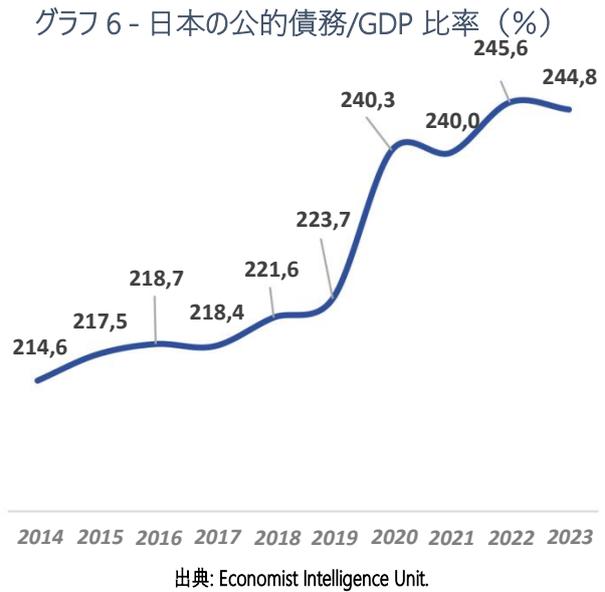
出典: Economist Intelligence Unit.

他の内需の構成要素も、2023年の日本のGDPに大きく貢献しました。投資は26.2%と、ブラジルより約10ポイント高い割合を占め、これは過去数年と同様の水準です。政府支出も重要な役割を果たしており、2023年には20.9%で、2019年の水準（19.9%）をやや上回り、パンデミック期間中にわずかに増加して2022年にピークの21.6%に達しました。

<sup>8</sup> Economist Intelligence Unit – One-click report: Japan | 2024年5月1日。

<sup>9</sup> [Japan: BOJ hikes interest rates for the first time in 17 years | AP News](#)

2023年、日本の公的債務/GDP比率は244.8%で、先進国の中で最も高く、世界全体ではベネズエラ（318.4%）とエリトリア（266.9%）に次いで3番目に高い水準となりました（EIU推計）。この割合は近年、日本の経済が不動産バブルの崩壊（1991年）、2008年の経済危機、2011年の東日本大震災、津波、福島第一原子力発電所事故、そして2020年から2021年のCOVID-19パンデミックなど、長期にわたる経済停滞と多くの危機に直面してきたため、増加し続けています。



日本の債務の大部分は国内で保有され、円建てであるものの、その高水準は日本銀行（BOJ）の政策運営の幅を制限しています。金利を過度に引き上げると、債務の返済が持続不可能になるリスクがあるためです。

日本は世界的な投資の重要な受け入れ先であり、2023年にはUNCTADによると、世界で18番目に多くの外国直接投資（FDI）を受け入れました。この年、210億米ドルが日本に投資されました。日本は今後も主要な投資先であり続けると考えられています。これは、世界第4位の経済規模、高い一人当たり所得、優れた人材、巨大な輸出産業、そして半導体や再生可能エネルギーといった戦略産業への投資を促進する政策など、魅力的な条件を備えているためです。

<sup>10</sup> Economist Intelligence Unit – One-click report: Japan | 2024年5月1日。

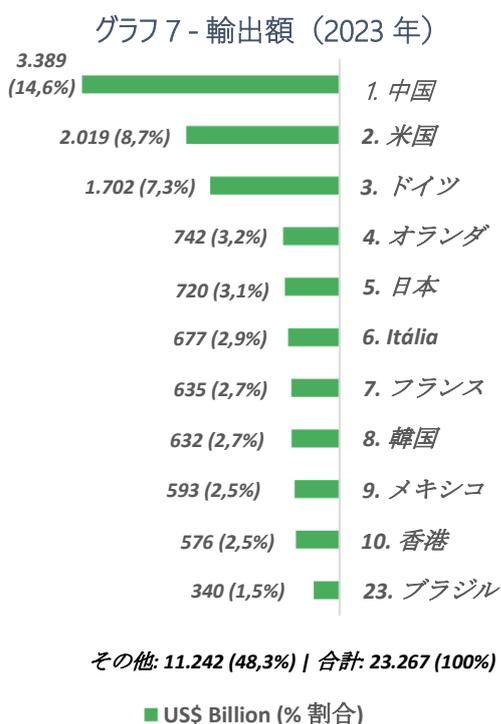
<sup>11</sup> Economist Intelligence Unit – One-click report: Japan | 2024年5月1日。

## 第2章 - 二国間貿易

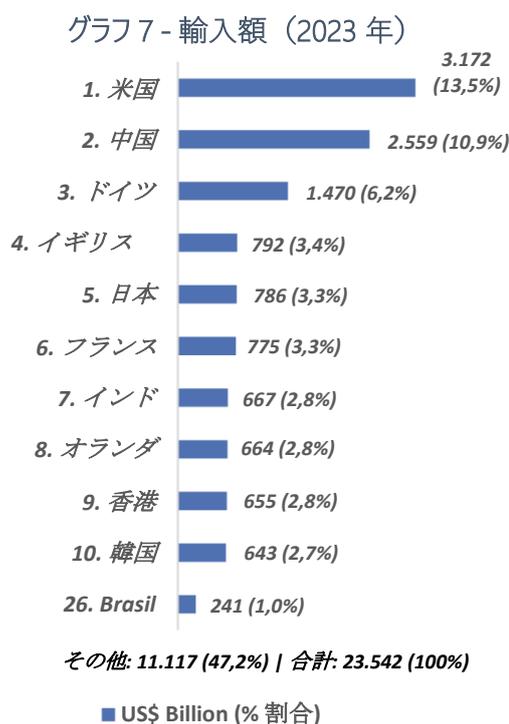
## 2.1 日本と国際貿易

日本は国際貿易における主要なプレーヤーの一つです。世界最大級の経済規模、国際的に展開された企業群、そしてグローバルバリューチェーンへの市場統合は、日本の国際経済関係における重要性を際立たせています。Trade Map/ITC によると、2023 年の日本の貿易額（輸出と輸入の合計）は 1.5 兆米ドルに達し、中国（5.9 兆米ドル）、アメリカ（5.2 兆米ドル）、ドイツ（3.2 兆米ドル）に次いで 4 番目に大きな貿易額を記録しました。これは、日本市場が国際貿易において非常に大きな役割を果たしていることを示しています。

2023 年には、日本は世界第 4 位の経済大国として、7200 億米ドル相当の製品を輸出し、世界第 5 位の輸出国となり、世界の輸出の 3.1%を占めました（Trade Map/ITC による）。一方、輸入額は 7860 億米ドルで、世界全体の 3.3%を占め、日本市場は世界第 5 位の輸入国となりました。この輸出入の差により、日本の貿易収支は 670 億米ドルの赤字となり、これは 2023 年の世界で 7 番目に大きな赤字額でした。日本の赤字額は、アメリカ（1.2 兆米ドル）、イギリス（2720 億米ドル）、インド（2350 億米ドル）、フランス（1410 億米ドル）、トルコ（1060 億米ドル）、香港（790 億米ドル）に次ぐ規模です。グラフ 7 および 8 は、それぞれ主要な世界の輸出市場および輸入市場を示しています。



出典: TRADE MAP/ITC.



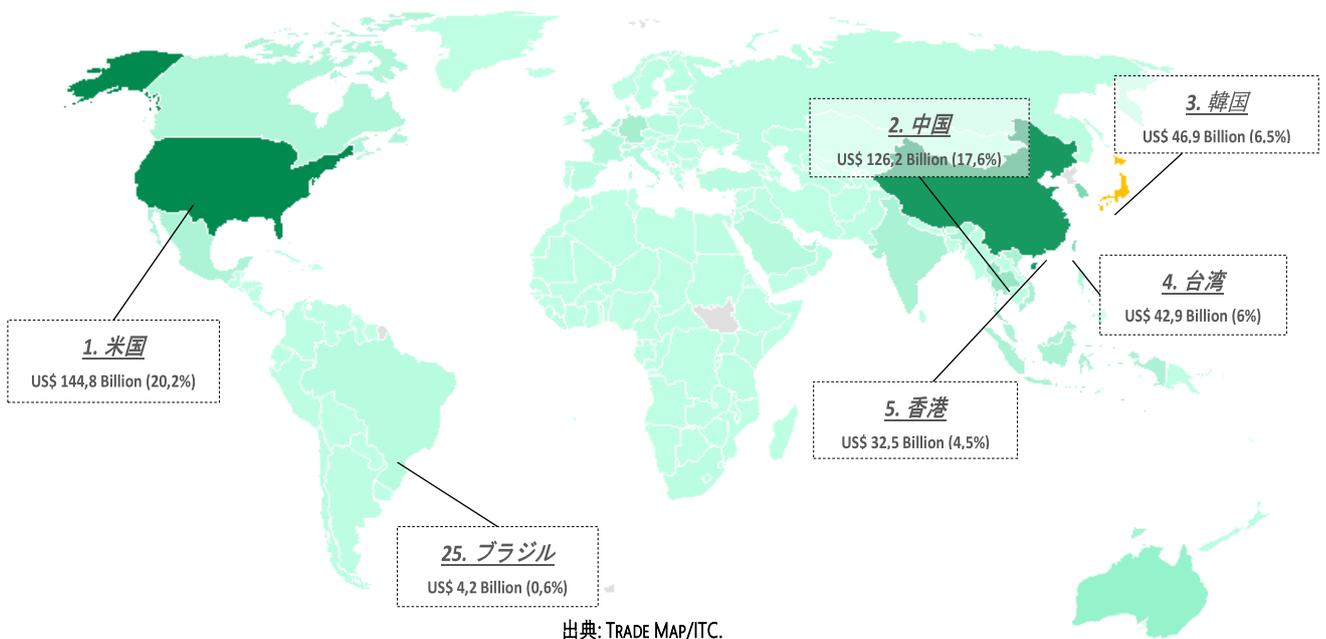
出典: TRADE MAP/ITC.

## 2.2 日本の輸出

日本の輸出先は多様化しています。マップ 1 が示すように、日本製品はほぼすべての市場に存在しています。2023 年には、米国が日本の輸出の主要な行き先となり、同国からの輸入総額は 1,448 億米ドル、つまり日本の総輸出の 20.2%を占めました。中国への販売も重要で、総額は 1,262 億米ドル、総輸出の 17.6%に達しました。

マップ 1 はまた、地理的に近いパートナーの重要性を示しています。米国を除くと、日本の主要な輸出先は東アジアに位置しており、中国のほかに、韓国（6.5%）、台湾（6%）、香港（4.5%）が含まれています。これらの 4 つの主要なアジアのパートナーへの輸出は、日本の総輸出の 3 分の 1 以上を占めており、日本の対外貿易がアジアへとシフトしていることを示しています。ブラジルは、2023 年には日本製品の 25 番目の行き先となり、42 億米ドル、すなわち総輸出の 0.6%に相当しました。

マップ 1 – 日本の輸出主要先（2023 年）



日本の輸出品目は、貿易パートナーの多様性と同様に多様化しています。輸出される主要な 10 の製品グループは、総輸出額の 50% 未満を占めており、自動車の販売のみがこの額の 10% を超えています。

表 1 に示されているように、日本の輸出は自動車、電子部品、産業機械および設備、自動車部品、電気機器、測定および制御機器、建設および土木工事用の設備など、さまざまな経済セクターにわたっています。これらのグループのほとんどは、2019 年から 2023 年の間に輸出が増加しており、特に自動車分野が際立っており、これは日本企業が世界的に優れた地位を占めていることを示しています。また、土木工事用の設備や機器も成長しています。

表 1 - 日本の主要輸出品目 (2023 年)

製品グループ	輸出額 (億米ドル)	割合 (%)	CMA (2019-2023, %)
乗用車	110,1	15,3	3,0
特殊操作および種類別に分類されない商品	56,3	7,8	5,8
冷陰極またはフォトカソードの真空管およびチューブ、ダイオード、トランジスタ	39,0	5,4	1,6
特定の産業向けの他の専門機械および設備とその部品	36,1	5,0	0,8
自動車の部品およびアクセサリ	27,8	3,9	-4,5
電気機械および機器	21,6	3,0	-2,0
測定、検証、分析、および制御のための器具および機器	20,6	2,9	1,2
土木工事および建設用の設備および機器とその部品	15,4	2,1	6,4
回路の接続、保護、または接続のための電気機器	15,2	2,1	-2,9
ピストンエンジンおよびその部品	14,6	2,0	-4,4
その他	360,9	50,3	-0,5
合計	717,6	100,0	0,4

出典：貿易マップ/ITC。注：“CMA”：年平均成長率。

日本は自動車貿易において重要なプレーヤーです。EIU によれば、2023 年には日本がこのセグメント（乗用車、トラック、バスを含む）の世界第 2 位の輸出国となり、中国に次いでいます。また、乗用車の輸出ではドイツに次いで第 2 位であり、これは日本の主要な輸出品目です。EIU の報告によれば、もし世界の電気自動車（EV）への需要が引き続き減少すれば、日本の製造業者は自動車の国際的な販売で主導権を握る可能性があります。なぜなら、中国の輸出は EV に大きく依存しているからです。それにしても、2023 年の自動車販売で首位に立ったのは日本企業でした。

日本の製造業者は、世界の自動車販売においてその地位を維持する必要があります。日本はこれらの財の第 2 位の輸出国であるだけでなく、中国と米国に次ぐ第 3 位の自動車生産国であり、インドに次ぐ第 4 位の自動車市場を有しています。日本の自動車産業の成功は、EV の販売が鈍化している中でも、ハイブリッド車の販売によっても強調されています。それでもなお、日本政府は 2035 年までに国内で販売されるすべての新しい自動車の電動化を目指しており、これは電気自動車用の充電インフラの拡充やバッテリー生産の強化を含む、同国のデジタル経済変革に向けた野心的な計画によって支持されています。EIU によると、日本を拠点とする主要な自動車メーカーは、製品ラインの電動化に関連する目標を持っており、いくつかの企業は完全な EV への移行を目指しています。

<sup>12</sup> Economist Intelligence Unit – One-click report: Japan | 2024 年 5 月 1 日。

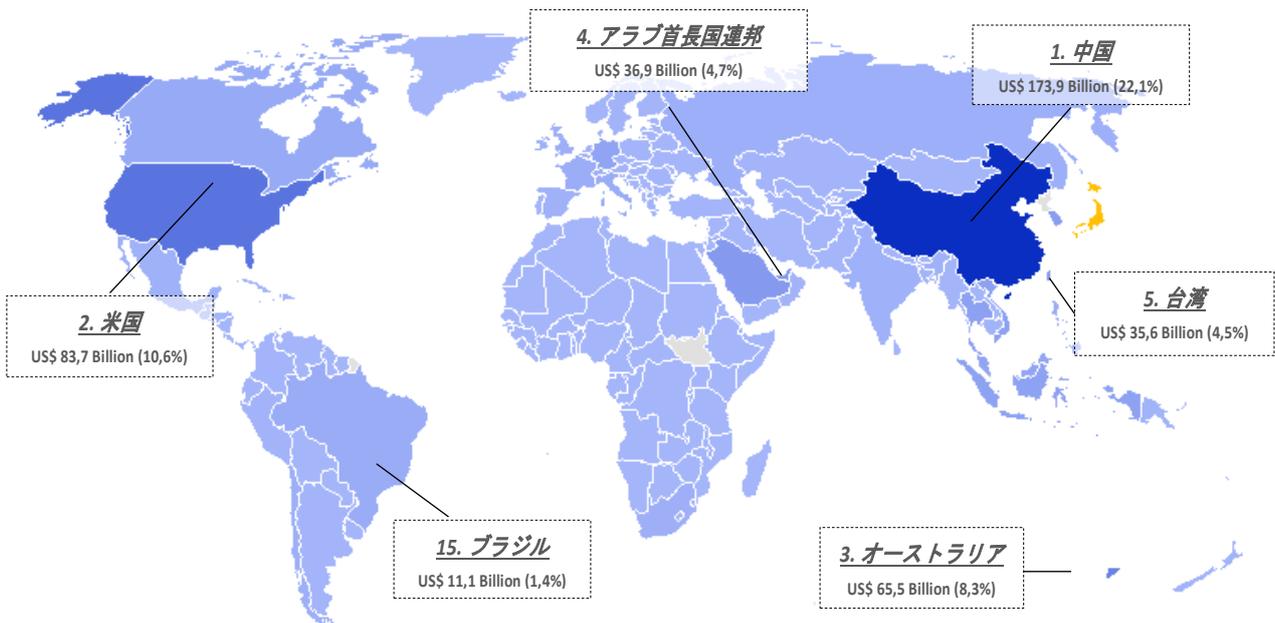
<sup>13</sup> Trade Map/ITC.

## 2.3 日本の輸入

日本の輸入供給者も多様化しており、マップ 2 に示されています。2023 年のデータによれば、主要な 5 つの供給者は日本市場の輸入総額の 50.3%を占めています。中国は日本の主要な供給国であり、日本の輸入の 22.1%を占めています。続いて、アメリカ（10.6%）、オーストラリア（8.3%）、アラブ首長国連邦（4.7%）、台湾（4.5%）が続きます。ブラジルの製品のシェアは比較的低く（1.4%）、2023 年には 15 番目の供給国となりました。

マップ 2 は、日本の商取引におけるアジア・オセアニア地域のパートナーの重要性を強調しています。供給者としても、日本の輸出先としても重要な役割を果たしています。しかしながら、アメリカと台湾を除いた主要な供給国との貿易収支は赤字であり、これは日本の対外貿易における不均衡を説明する要因となっています。この傾向は、ブラジルとの二国間貿易にも適用されており、貿易マップ（Trade Map）/ITC によると、日本はブラジルとの貿易で第 9 位の赤字を抱えています。

マップ 2 – 日本の主要仕入先（2023年）



出典: TRADE MAP/ITC.

表 2 から、日本が原油、天然ガス、石炭といった炭化水素の輸入に強く依存していることが、 れらは 2023 年の輸入総額の 23.9%を占めています。さらに、主要な輸入品は炭化水素（原油、天然ガス、石炭）であり、日本は 2019 年から 2023 年の間にこれらの製品グループの世界の 5 大バイヤーの一つとなります（Trade Map/ITC による）。

それにもかかわらず、2023年の日本の輸入は比較的多様化しており、炭化水素だけでなく、通信機器、電子部品、医薬品、データ処理機械なども含まれています。ほとんどの主要な輸入品は、2019年から2023年間に平均年間成長率（CMA）がプラスであり、2つの製品グループを除いて、石炭や医薬品・医療製品（獣医用を除く）の購入は二桁の成長を示しています。この期間中、日本の総輸入額のCMAは総輸出額を上回り、これは国の貿易赤字が拡大する傾向を示しています。

表 2 - 日本の主要輸入品目（2023年）

製品グループ	輸入額（億ドル）	割合（%）	CMA (2019-2023, %)
原油または瀝青鉱物由来の原油	80,4	10,2	2,4
液化または非液化天然ガス	47,0	6,0	4,2
粉末状でも凝集していない石炭	42,4	5,4	16,2
通信機器（部品および付属品を含む）	35,3	4,5	0,8
冷陰極管、光陰極管、ダイオード、トランジスタ	33,2	4,2	8,9
原油以外の石油または瀝青鉱物由来の燃料油	17,8	2,3	7,8
医薬品および薬品（獣医用を除く）	17,2	2,2	11,0
その他の医薬品（獣医用を含む）	15,9	2,0	-1,6
データ処理装置およびその単位、磁気または光学式リーダー	15,3	1,9	-3,1
特別な取引および未分類の商品	13,1	1,7	2,4
その他	468,4	59,6	0,7
合計	785,9	100,0	2,2

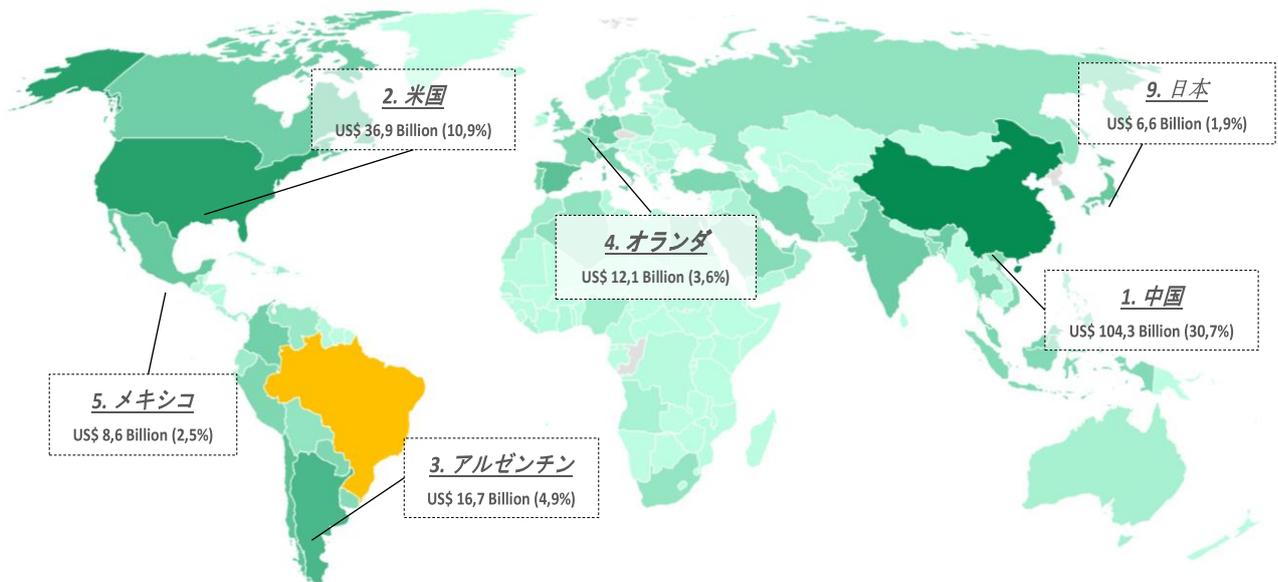
出典: Trade Map/ITC. Nota: 「CMA」: 年平均成長率。

## 2.4 ブラジル日本貿易

日本は2023年にブラジルの9番目の主要貿易パートナーとなり、二国間の貿易額は117億米ドル（ブラジルがその年に取引した全ての財の2%に相当）に達しました。また、ブラジルにとっては、中国に次ぐ第2のアジアパートナーでもあります（Comex Stat/MDICによる）。グラフ9に示されているように、ブラジルの貿易収支は2021年以降、黒字が続いています。この黒字は増加傾向にあり、2023年には15億米ドルに達し、その年のブラジルの最大の黒字の19番目となりました。

最近数年間、貿易の流れは増加していますが、2011年の170億米ドルを超える水準には達していません（Comex Stat/MDICによる）。2023年には、日本はブラジルの輸出先として第9位となり、ブラジルの対外販売の1.9%を占めました。また、ブラジルの輸入元としては第10位であり、輸入の2.1%を占めています。マップ3および4は、日本の輸出先およびブラジル市場への供給者としての参加状況を、ブラジルの主要貿易パートナーと比較することを可能にします。

マップ3 – ブラジルの輸出主要先（2023）



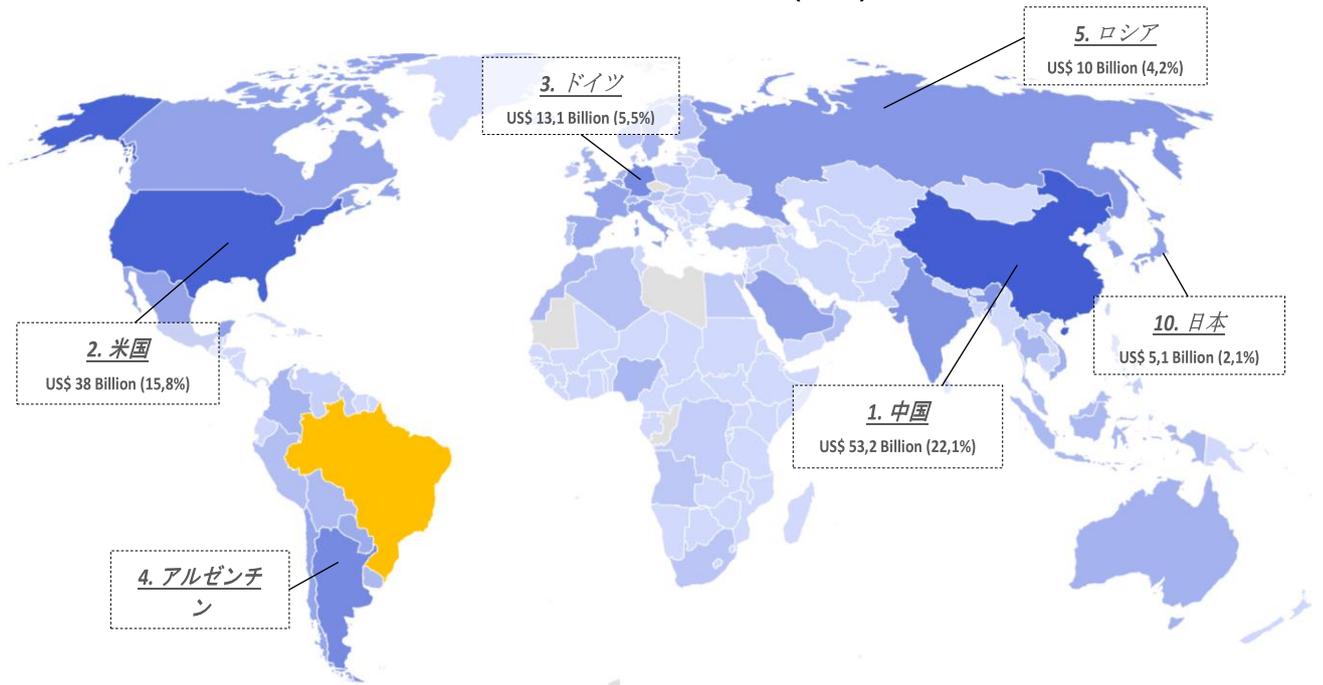
出典: COMEX STAT/MDIC.

グラフ9 - ブラジル-日本の貿易収支



出典: COMEX STAT/MDIC.

マップ4-ブラジルの輸入主要仕入先(2023)



出典: COMEX STAT/MDIC.

## 2.5 ブラジルから日本への輸出

ブラジルから日本への輸出は、主にコモディティで構成されており、特に農産物（トウモロコシ、鶏肉、コーヒー、大豆など）や鉱物（鉄鉱石など）が注目されています。表3に示されているように、主要な製品グループであるトウモロコシ、鉄鉱石、鶏肉の3つは、2023年の日本への輸出総額の55.2%を占めており、これは輸出品目の多様化の必要性を示しています。しかしながら、2019年から2023年の間に、ほぼすべての主要な輸出品において年平均成長率がプラスとなっており、特に豚肉、大豆、アルミニウムの販売が増加しています。

表 3 – ブラジルから日本への主要輸出品目グループ (2023)

製品グループ	輸出額 (百万米ドル)	割合 (%)	CMA (2019-2023, %)
粉砕されていないトウモロコシ (甘いトウモロコシを除く)	1,470,5	22,2%	6,9%
鉄鉱石およびその濃縮物	1,234,9	18,7%	3,6%
鶏肉およびその可食内臓 (生、冷蔵または冷凍)	948,8	14,3%	4,0%
未焙煎コーヒー	436,1	6,6%	6,1%
アルミニウム	361,7	5,5%	21,7%
生鉄、スピッゲル、スパンゲル、鉄または鋼の粒子および粉末、鉄合金	356,9	5,4%	4,4%
大豆	342,7	5,2%	17,4%
大豆粕およびその他の動物飼料 (粉砕されていない穀物を除く)、肉およびその他の動物の粉末	233,0	3,5%	7,4%
セルロース	163,2	2,5%	-2,8%
生、冷蔵または冷凍の豚肉	132,8	2,0%	59,3%
その他	939,6	14,2%	-2,9%
合計	6,620,2	100,0%	5,1%

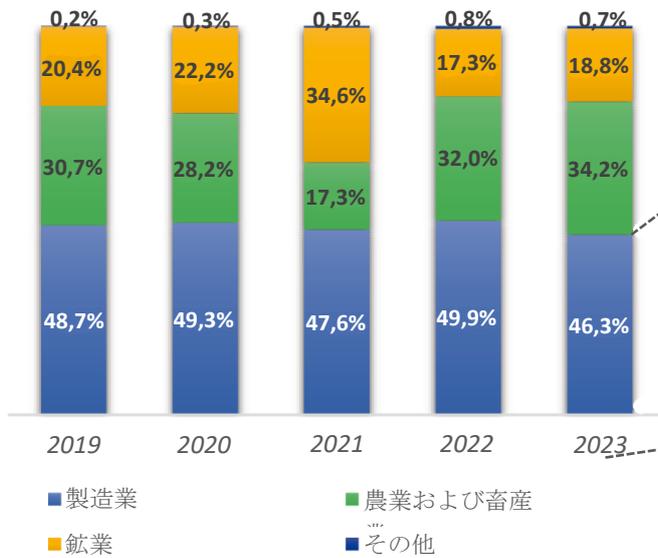
出典: COMEX STAT/MDIC. 注: 「CMA」: 年平均成長率.

日本はブラジルの多様な輸出品にとって重要な行き先です。2023 年には、日本市場がブラジルからのアルミニウムの購入を主導し、鶏肉とトウモロコシの第 2 の主要買い手となりました (中国に次ぐ)。また、鉄鉱石の第 3 の購入国、鋳鉄およびその他の鉄・鋼製品の第 4 の買い手、焙煎されていないコーヒーの第 5 の買い手、パルプの第 6 の買い手、豚肉の第 6 の買い手でもあります。この豚肉は、2019 年から 2023 年の間に最も高い平均成長率を示した二国間の製品です。したがって、日本のバイヤーはさまざまなブラジル製品の外需において重要な役割を果たしています。

さらに、ブラジルは日本市場において多様なセグメントの重要な供給者です。Trade Map/ITC によれば、2023 年にはブラジルの輸出業者が鶏肉と焙煎されていないコーヒーの販売を主導し、鉄鉱石の供給においてはオーストラリアに次いで第 2 位、トウモロコシ、大豆、パルプにおいてはアメリカに次いで第 2 位となりました。また、ブラジルは鋳鉄およびその他の鉄・鋼製品の第 3 の供給国、アルミニウムの第 4 の供給国、大豆かすの第 5 の供給国、豚肉の第 7 の供給国でもあります。したがって、ブラジルの主要な輸出品は日本市場で競争力を持っています。

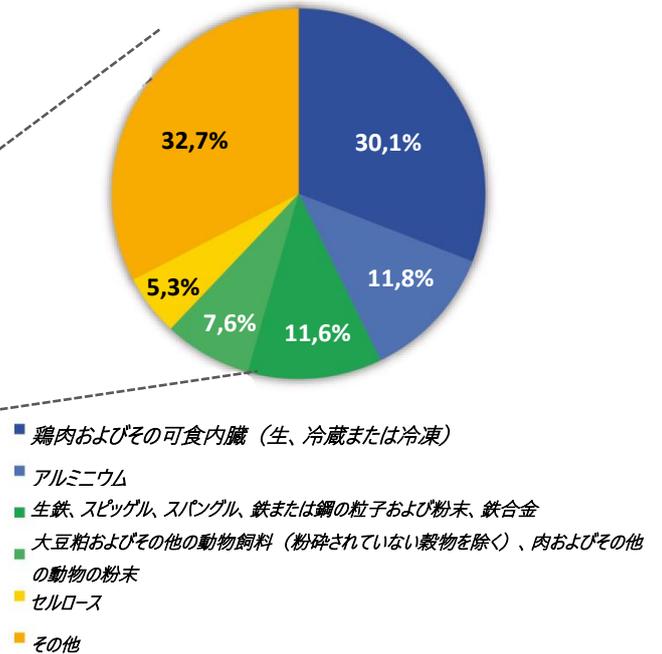
グラフ 10 に示されているように、2023 年において加工産業からの輸出は、総輸出額の 46% 以上を占め、最も大きな割合を占めました (Comex Stat/MDIC による)。鶏肉はこのセクターの輸出額の 30.1% を占め、次いでアルミニウム (11.8%)、鋳鉄およびその他の鉄・鋼製品 (11.6%)、大豆かす (7.6%)、パルプ (5.3%) となっています。一方、農業からの輸出額の大部分はトウモロコシ (65%) によるものであり、採掘産業からの販売はほぼすべてが鉄鉱石 (99.1%) となっています。これらのデータは、日本市場向けのブラジルの販売を特に付加価値の高い製品で多様化する必要性を強調しています。

グラフ 10 - ブラジルから日本への輸出 (ISIC セクション別)



出典: COMEX STAT/MDIC.

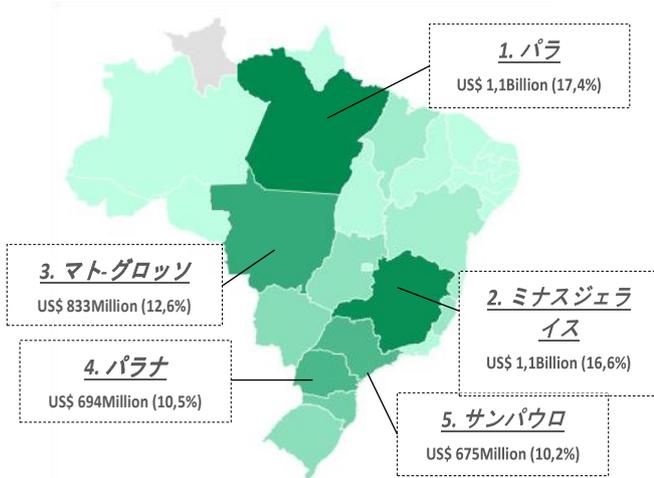
グラフ 11 - ブラジルから日本への輸出 - 製造業 (2023 年)



出典: COMEX STAT/MDIC.

マップ 5 に示されているように、ブラジルから日本への輸出は連邦単位で比較的集中しており、特にパラ州、ミナスジェライス州、マトグロッソ州、パラナ州、サンパウロ州が際立っています。これらの州は、2023 年における日本市場への販売の 67.2% を占めています (Comex Stat/MDIC による)。

マップ 5 - 日本向けブラジルの州別輸出 (2023)



出典: COMEX STAT/MDIC.

2023 年、鉄鉱石はパラ州から日本への販売の 58.7% を占め、この州の輸出品目の中で最も大きな割合を示しました。一方、ミナスジェライス州の輸出は焙煎されていないコーヒーが主導し、34.5% を占めました。また、マトグロッソ州とパラナ州は主にトウモロコシを輸出しており、それぞれ 61.1% および 48% を占めています。主要な輸出州の中で、サンパウロ州は輸出品目の集中度が最も低く、主な輸出品である土木工事の設置および設備は、全体の 11.4% に過ぎませんでした。この州の輸出には、果汁、鶏肉、化学製品、トウモロコシ、コーヒー、大豆なども含まれています。

## 2.6 日本からのブラジルへの輸入

ブラジルの輸入品目は、輸出品目よりも集中度が低くなっています。表 4 に示されているように、主要な 3 つの製品グループは 2023 年の総輸入額の 28.5% を占めており、輸入品の中で 10% を超えるのは自動車部品のみです。ブラジルの日本からの輸入は、主に付加価値の高い商品、例えば自動車部品、化学製品、電子部品、医薬品、機械および設備で構成されています。

日本の製造業者はブラジル市場において重要な役割を果たしています。2023 年には、日本がブラジルへの自動車の部品およびアクセサリーの第 2 の供給国となり、中国に次ぐ地位を占めました（Comex Stat/MDIC による）。さらに、日本は電気機械および設備の第 3 の供給国、測定器および装置の第 4 の供給国であり、真空管およびその他の電子部品、無機有機化合物、ピストンエンジンの第 6 の供給国でもあります。グラフ 12 は、日本からブラジル市場への販売における付加価値の増加を示しており、輸入は過去数年にわたり 99% 以上が加工産業からのものであることを示しています。

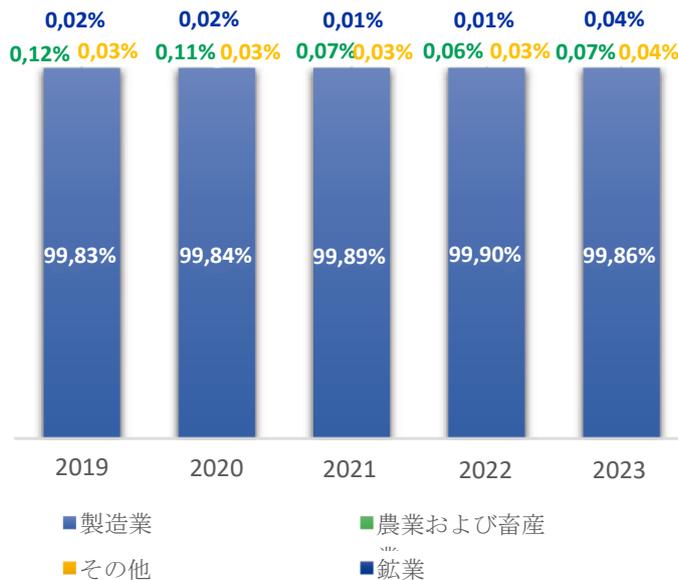
マップ 6 に示されているように、ブラジルの日本からの輸入は連邦単位で比較的集中しています。2023 年には、サンパウロ州が総輸入額のほぼ半分（49.2%）を占めました。主要な 5 つの州（サンパウロ、アマゾナス、パラナ、ミナスジェライス、リオデジャネイロ）は、その年にブラジルへの日本からの販売の 80.3% を占めました。Comex Stat/MDIC によれば、ブラジルの自動車部品およびアクセサリーは、サンパウロ州（総額の 19.2%）とミナスジェライス州（34%）の主要な輸入品でした。一方、アマゾナス州では、オートバイ、電動・非電動の自転車、障害者用車両（18.2%）が最大の輸入品となっており、これはマナウスの自由貿易ゾーンの影響を受けています。パラナ州の最大の輸入品は紙およびパルプの機械（29.3%）であり、リオデジャネイロ州では電気機械でないエンジンおよび機械が輸入の主な項目となっていました（16.5%）。

表 4－ブラジルが日本から輸入する主要製品グループ（2023 年）

製品グループ	輸入額 (百万米ドル)	割合 (%)	CMA (2019-2023)
自動車部品およびアクセサリ	937,9	18,3	3,6
有機無機化合物、ヘテロ環化合物、核酸およびその塩、スルファニルアミド	275,5	5,4	6,3
測定、検証、分析および制御の機器および装置	250,3	4,9	7,5
ピストンエンジンおよびその部品	227,7	4,4	2,8
電気機器および装置	188,0	3,7	5,5
冷陰極管、光陰極管、ダイオード、トランジスタ用のバルブおよび管	162,7	3,2	2,8
製紙およびパルプ用の機械、紙裁断機および紙製品製造機械およびその部品	141,2	2,8	74,5
医薬品および薬品（獣医用を除く）	123,6	2,4	31,5
土木工事および建設機器、設備およびその部品	98,7	1,9	16,9
オートバイ、自転車（電動または非電動）および障害者用車両	98,7	1,9	0,3
その他	2.624,3	51,2	-1,7
合計	5.128,5	100,0	2,0%

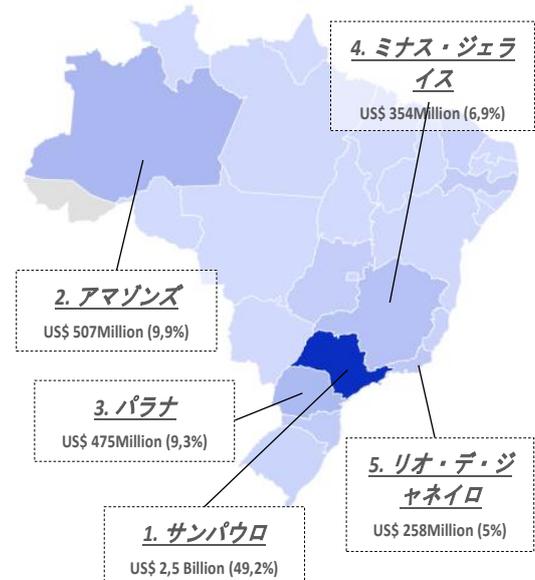
出典: COMEX STAT/MDIC.

グラフ 12－日本からのブラジルの輸入（ISIC セクション別）



出典: COMEX STAT/MDIC.

マップ 6－日本からのブラジルの州別輸入（2023）



出典: COMEX STAT/MDIC.

## 2.7 日本に焦点を当てた分野別プロジェクト

ブラジルの対外貿易における日本市場の重要性を受けて、APEXBRASIL は日本を優先市場とする 8 つのセクター別プロジェクトを展開しています。これらのプロジェクトは、対象となる経済セクターの団体と連携して実施されており、表 5 に示されているように、さまざまな複合体を網羅しています。

表 5 – APEXBRASIL による日本市場を対象としたセクター別プロジェクト

複合体	プロジェクト
食品、飲料および農業ビジネス	ABIEC (牛肉)、ABPA (豚肉、鶏肉および卵)、BSCA (スペシャリティコーヒー)、CONSEVITS-RS (ワイン産業)、UNEM (トウモロコシ粕)、UNICA (エタノールおよびその派生品)
ファッション	ABEST (ファッションデザイン)
マルチセクターおよびその他	ABVCAP (ベンチャーキャピタルおよびプライベートエクイティ)

出典: APEXBRASIL.

## 2.8 商業機会

[ApexBrasilの機会マップ](#)は、日本市場におけるブラジルの輸出業者にとって商業的機会がある319の製品 (HS6) を特定しています。これらの機会の総額は、可能な輸出額として631億米ドルを超えており、その値、製品数、および注目すべき点は、表6において複合体ごとに要約されています。

表 6 – 日本におけるブラジルの輸出に関する商業機会 (2023)

グループ	輸入額 (US\$ Billion)	製品数(SH6)	ハイライト
原材料 (非食用、燃料を除く)	22,0	39	M 鉄鉱石、大豆、木材、およびプラチナ廃棄物
食品および生きた動物	15,5	86	トウモロコシ、豚肉、生コーヒー、大豆粕、砂糖およびモラセス、果物
輸送用機械および設備	8,3	53	ボイラー、蒸気タービン、タービン部品、コンプレッサー、およびその他のエンジン部品
主に素材によって分類される製品	5,4	67	飛行機、ピストンエンジン部品、電気および電子廃棄物、ならびに自動車
その他	12,0	74	プラスチック製品、化学製品、ピストンエンジン、エタノール、自動車部品、医薬品
合計	63,1	319	

出典: APEXBRASIL – [MAPA DE OPORTUNIDADES](#).

絶対的な価値においては、銅鉱石や鉄鉱石、大豆、パルプなどの原料や石油の販売機会が目立っていますが、製品の数においては、食品および生きた動物、加工品、その他の製品の複合体の輸出に対する見通しがより多く存在しています。日本が求める商品の多様性は、薬品からエタノールまでの例が挙げられるハイライトの欄に示されています。

ApexBrasil の日本市場に焦点を当てたセクター別プロジェクトの一環として、機会マップは、主に豚肉、グリーンコーヒー、エタノールの生産者に対して、ブラジルの輸出を確立または維持する機会を特定しています。冷凍豚肉のセグメントでは、日本の輸入額は 2023 年に 22 億米ドルに達し、これはデータが利用可能な最後の年です。この製品のブラジルからの輸出額は約 1 億 3500 万米ドルに達し、市場シェアは 6.3%でしたが、2020 年から 2023 年の間に年平均成長率は 36.5%と高く、ブラジルの主な競争相手であるスペイン（9.6%）を上回りました。したがって、日本におけるこの製品のブラジルからの輸出の市場シェアを拡大する機会が存在しています。

焙煎されていないコーヒーの販売に関して、ブラジルは日本で重要な市場を持っており、2023 年には約 4 億 7450 万米ドルの販売を記録し、14 億米ドルの日本の輸入の約 3 分の 1 を占めました。2020 年から 2023 年の間に、ブラジルのこの製品の輸出の年平均成長率（16.3%）は、ブラジルの主な競争相手であるベトナム（13.4%）を上回りましたが、タイ（16.8%）のシェアは日本におけるブラジルのそれにはまだ大きく及んでいません。したがって、ブラジルのこの製品の輸出のリーダーシップを維持する機会があり、成長を続けています。

エタノールの日本への輸出におけるブラジルのリーダーシップを維持する機会はさらに有望です。2023 年、ブラジルは日本が輸入した非脱酸素エタノールの 703.5 百万米ドルの約 80%を供給し、これは主な競争相手であるアメリカ（市場シェア 13.1%）を大きく上回っています。さらに、2020 年から 2023 年の間に、ブラジルのこの製品の販売の年平均成長率は 11.7%であり、北米の輸出（5.3%）を上回っています。これにより、日本市場におけるブラジルのエタノール輸出業者のリーダーシップを拡大する機会が示されています。

---

<sup>14</sup> ApexBrasil Opportunity Map 手法は、UN Comtrade のデータに基づいています。したがって、輸出額はComexStatが提示するものと異なる場合があります。

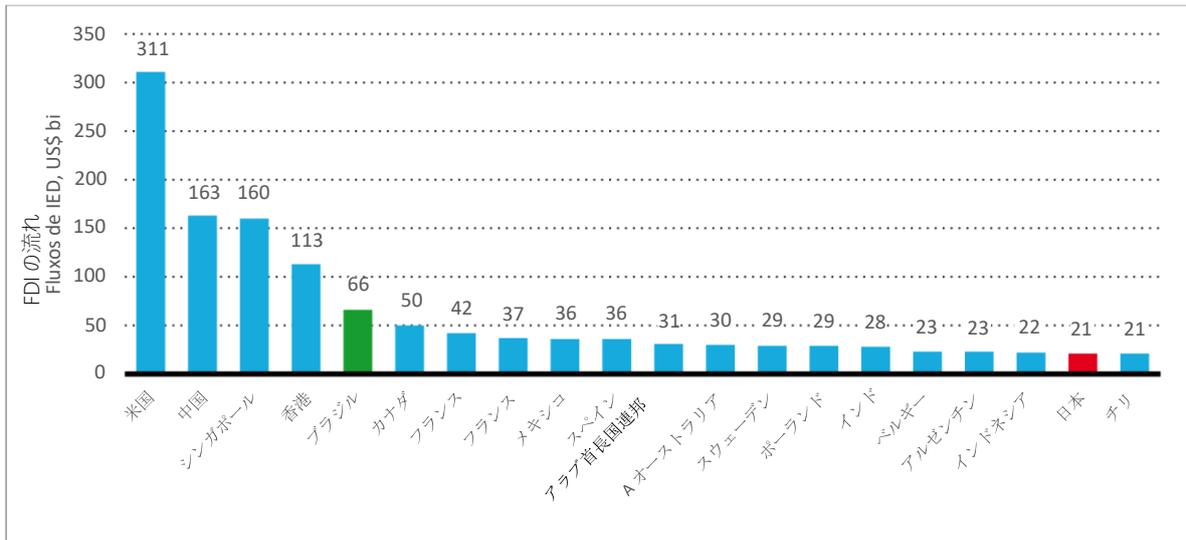
## 第 3 章 - 二国間直接外国投資

### 3.1 世界におけるブラジルと日本の投資の概観

本研究で以前に言及した貿易の機会に加えて、ブラジルと日本はともに世界的な投資市場においても重要な役割を果たしています。一般的に、日本は世界有数の外国直接投資（FDI）の発源国の一つとして際立っており、ブラジルは FDI の主要な行き先の一つです。両国は長年の貿易および外交関係の歴史により、相互に堅実な生産的投資を維持しています。

国連貿易開発会議（UNCTAD）の 2024 年版「世界投資報告」によれば、2023 年の世界の FDI 流入は約 1.33 兆米ドルで、2 年連続の減少を記録し、2022 年に対して約-1.2%、2021 年に対しては-17.9%の減少となりました。この厳しい状況の中でも、グラフ 13 に示されているように、**ブラジルは 2023 年において世界で 5 番目に多くの投資を受け入れ、総流入額は 659 億米ドルに達しました。**一方、日本は 19 番目で、214 億米ドルの投資を受け入れました。

グラフ 13 – 2023年の外国直接投資の主要受け入れ国（十億米ドル）



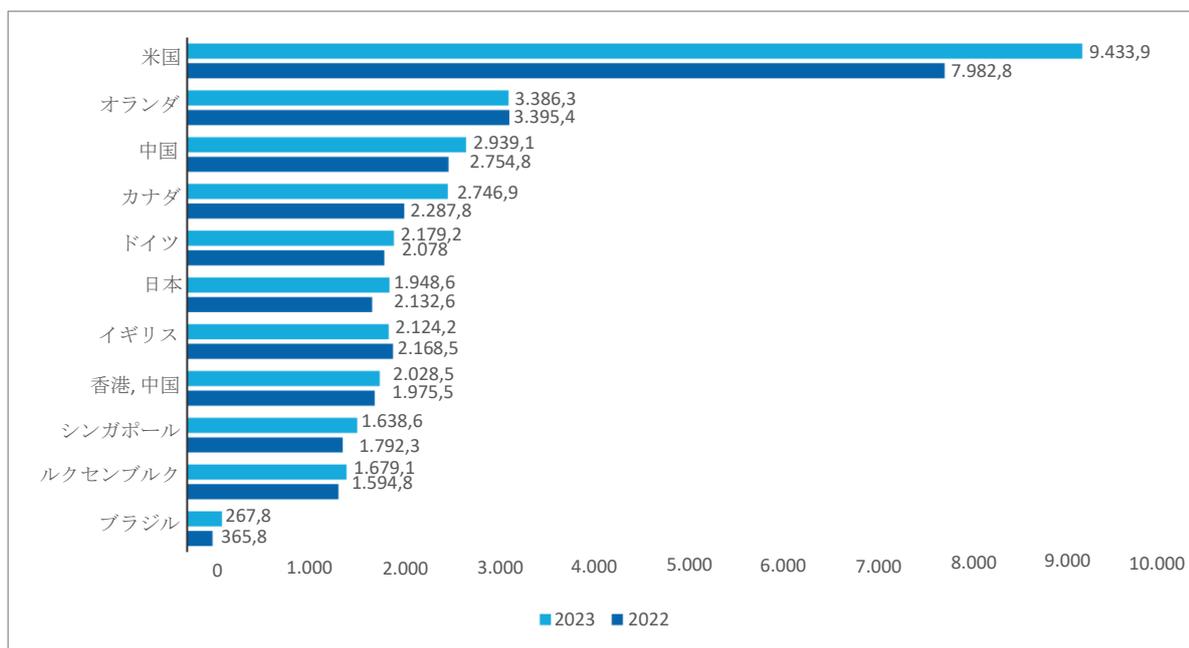
出典: UNCTAD. WORLD INVESTMENT REPORT 2024.

このように、2023 年の世界の外国直接投資（FDI）の純流入額のうち、ブラジルには 4.9%、日本には 1.6% が配分されました。また、2019 年から 2023 年の 5 年間における FDI の年間平均流入額は、ブラジルで 567 億米ドル、日本で 231 億米ドルとなり、これによりブラジルはこの期間の世界で 5 番目、日本は 16 番目の主要な FDI 受け入れ国となりました。

<sup>15</sup> FDI の「純」フローとは、新規資本の流入または流出とそのリターン（本国送金）の差額のバランスを指します。

両国は FDI の流出に関しても際立っています。つまり、日本企業とブラジル企業の海外投資に関してです。日本は、海外への生産的投資の強力な発信国として歴史的に位置付けられており、2023 年には海外の FDI ストックが 2.13 兆米ドルに達し、これはその年の世界全体の FDI ストックの 4.8% に相当します。この金額により、日本は 2023 年において世界で 6 番目に多くの投資を行った国となりました。

グラフ 14 – 世界の出所別外国直接投資（IED）残高（2022 年および 2023 年、十億米ドル）  
トップ 10 の国とブラジル



出典: UNCTAD. WORLD INVESTMENT REPORT 2024.

一方、ブラジルは伝統的に主要な投資先として位置付けられているだけでなく、海外への外国直接投資（FDI）の発信国としての役割も増加しています。2023 年の FDI ストックは 3658 億米ドルに達し、これは世界全体の 0.8% に相当し、オーストリア、アラブ首長国連邦、サウジアラビア、ノルウェーといった海外投資の伝統を持つ経済国を上回る 22 位にランクされています。

また、2019 年から 2023 年の間に、日本の海外投資のストックは年平均成長率（CMA）が 6.4%、ブラジルの投資は 5.7%と、いずれも世界平均の 5.5%を上回っています。これは、両国の経済が引き続き海外投資を強化しようと努力していることを示しています（表 7 参照）

<sup>16</sup>UNCTAD と BCB FDI ストックの価値は、計算方法の問題により異なります。

表 7 – 世界の対外直接投資（IED）ストックの年平均成長率（2014-2023）  
選択された国々

国	CMA
中国	12, 8%
カナダ	8, 9%
日本	6, 4%
ブラジル	5, 7%
世界	5, 5%
オランダ	5, 1%
ドイツ	4, 5%
米国	4, 1%

出典：UNCTAD. WORLD INVESTMENT REPORT 2024.

## 3.2 グリーンフィールドおよびブラウンフィールド投資

ブラジルと日本は、外国企業による新しいグリーンフィールドプロジェクトや新しい合併・買収（ブラウンフィールド）契約の「発表」に関しても主要な国の一つです。

Orbis Crossborder Investment のデータベースによれば、2019 年から 2023 年の間に、ブラジルでは外国資本による 1627 件のグリーンフィールドプロジェクトが発表され、推定で 3535 億米ドルの価値がありました。一方、逆に、ブラジルの企業によって海外で 267 件のグリーンフィールドプロジェクトが発表され、約 64 億米ドルの価値がありました。

この期間に日本はブラジルよりも少ない数のグリーンフィールドプロジェクトを受け入れ、881 件の新しいプロジェクトがありました。しかし、資本の輸出国としての特徴を踏まえ、2019 年から 2023 年の間に、日本の海外におけるグリーンフィールド投資は 2466 件に達し、推定で 1840 億米ドルの設備投資（Capex）を実施しました。

表 8 – 発表されたグリーンフィールドプロジェクトの数 – 2019 年から 2023 年

	グリーンフィールドプロジェクトの数	Capex (US\$ bi)		グリーンフィールドプロジェクトの数	Capex (US\$ bi)
海外から日本	881	34,3	海外からブラジル	1.627	353,5
日本から海外	2.466	184,0	ブラジルから海外	267	6,4

出典: ORBIS BVD.

### 3.3 インフラ投資

Fitch Connect のデータベースによれば、ブラジルは 2019 年から 2023 年の間に外部からのインフラ投資を最も多く受け入れた国の中で第 6 位に位置し、1314 件のプロジェクトで約 5057 億米ドルの価値を持っています。一方、日本はこの期間に 322 件のインフラプロジェクトを受け入れ、外国からの投資は推定で 2917 億米ドルに達し、この期間で 16 番目に大きな金額となりました。

表 9 – ブラジルにおけるインフラプロジェクト – 2019-2023 年

セクター/サブセクター	プロジェクト数	Capex (百万米ドル)
<b>エネルギーおよび公共サービス</b>	<b>771</b>	<b>224.465,9</b>
発電所および電力網	722	204.741,9
水	39	10.630,0
石油およびガスのパイプライン	10	9.094,0
<b>交通</b>	<b>396</b>	<b>188.622,0</b>
道路および橋	149	43.854,0
鉄道	120	114.215,0
港	94	21.601,0
空港	33	8.952,0
<b>建設業</b>	<b>133</b>	<b>91.989,0</b>
商業建設	95	82.233,0
工業建設	36	9.756,0
住宅建設	2	-
<b>ソーシャル・インフラ</b>	<b>14</b>	<b>657,0</b>
医療・健康	7	390,0
その他	7	267,0
<b>総合計</b>	<b>1.314</b>	<b>505.733,9</b>

出典: FITCH CONNECT.

ブラジルで特定された 1314 件のプロジェクトは、主にエネルギー生成セクターに集中しており、特に水力発電や陸上および洋上の風力発電、輸送、建設業が含まれています。

一方、日本で特定された 322 件のプロジェクトは、主に輸送セクター（特に鉄道）、商業目的の建設業、そして太陽光発電、洋上風力発電、石炭発電を含む電力生成セクターに分布しています。特に、エネルギー部門では、投資額が最も大きかったのは石炭関連のサブセクターです（表 10 参照）。

表 10 – 日本におけるインフラプロジェクト – 2019-2023 年

セクター/サブセクター	プロジェクト数	Capex (百万米ドル)
<b>エネルギーおよび公共サービス</b>	<b>189</b>	<b>72.207,0</b>
発電所および電力網	184	65.930,0
水	2	6.277,0
石油およびガスのパイプライン	3	-
<b>交通</b>	<b>30</b>	<b>123.416,0</b>
鉄道	25	119.583,0
空港	4	3.833,0
道路および橋	1	-
<b>建設業</b>	<b>101</b>	<b>96.124,0</b>
商業建設	64	57.692,0
工業建設	35	38.032,0
住宅建設	2	400,0
<b>ソーシャル・インフラ</b>	<b>2</b>	<b>-</b>
医療・健康	2	-
<b>総合計</b>	<b>322</b>	<b>291.747,0</b>

出典：FITCH CONNECT.

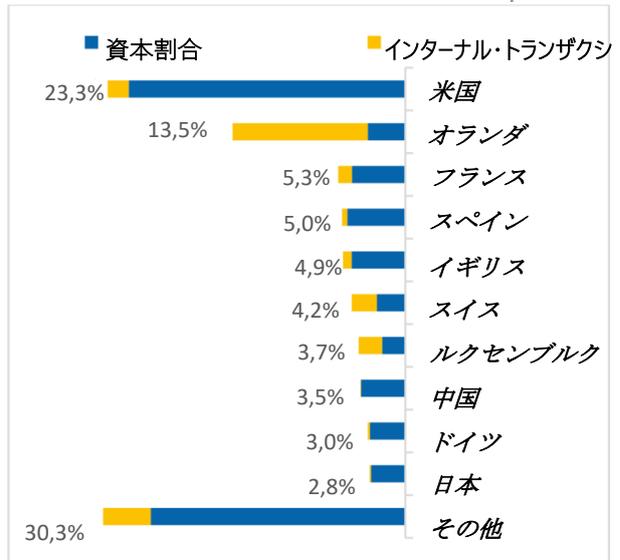
日本はすでに優れたインフラを備えた国であり、世界でも有数の経済大国です。しかし、日本のインフラの多くは古く、他の先進国と同様に、将来的には近代化や再建に向けた努力や支出が必要とされるでしょう。これにより、新たな投資機会が生まれる可能性があります。

## 3.4 ブラジルの外国直接投資（FDI）

### 3.4.1 世界からブラジルへの FDI のストックおよびフロー

BCB によれば、2022 年のブラジルにおける外国直接投資（FDI）のストックは 1 兆 200 億米ドルであり、これは資本参加による投資（7643 億米ドル）と関連会社間取引（2568 億米ドル）に分類されます。ブラジルにおける FDI の最終的な支配企業は、主にアメリカ、欧州諸国、および中国に所在しています（グラフ 15 参照）。

グラフ 15 – ブラジルにおける世界の対外直接投資（IED）、主要な出所 – 最終コントローラーのストック、2022 年



出典：BCB.

グラフ 16 – 世界のブラジルにおける対外直接投資（IED）、主要な活動 – ストック、2022 年

製造業は 2021 年に IED のストックの 38% を占めています。これらの産業、金融業、鉱業はブラジルにおける IED の 67% を占めています（グラフ 16）。

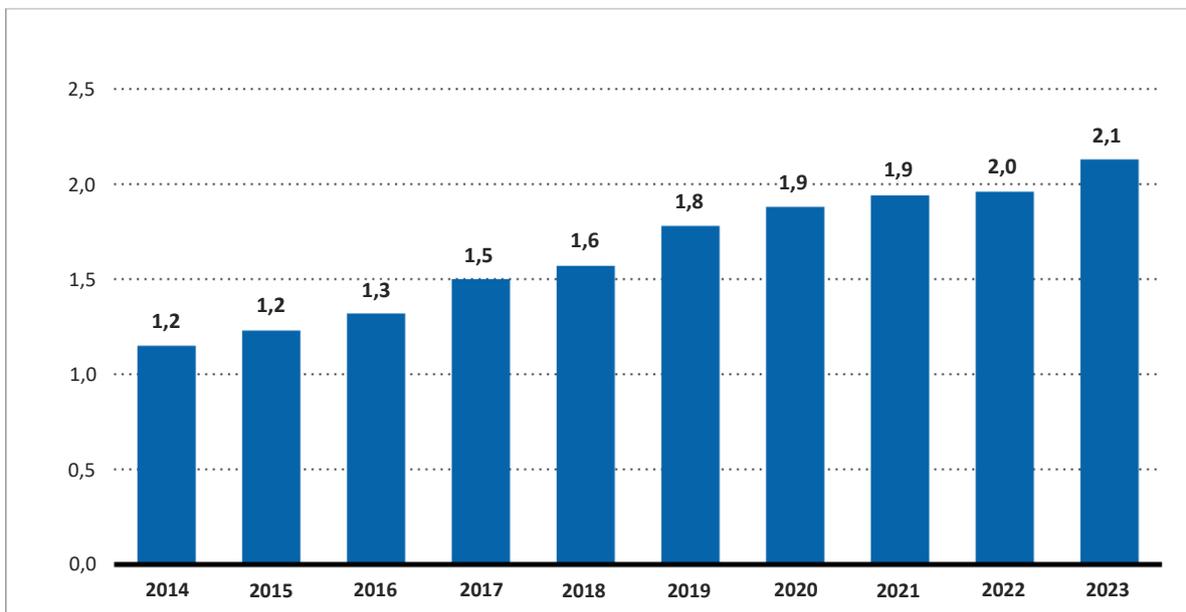


出典：BCB. 注：活動は CNAE セクションに従って記載されています。

### 3.4.2 日本からブラジルへのFDIのストックおよびフロー

日本の対外投資のストックについて、UNCTADは2023年に2.13兆米ドルの値を記録しました。これは過去10年間で最高の値です。コロナウイルスのパンデミック中およびその後の停滞期間を経て、2021年から世界における日本の対外直接投資（IED）のストックは再び成長を始めました。

グラフ 17 – 世界における日本の対外直接投資（IED）のストック（2014-2023年、兆米ドル）



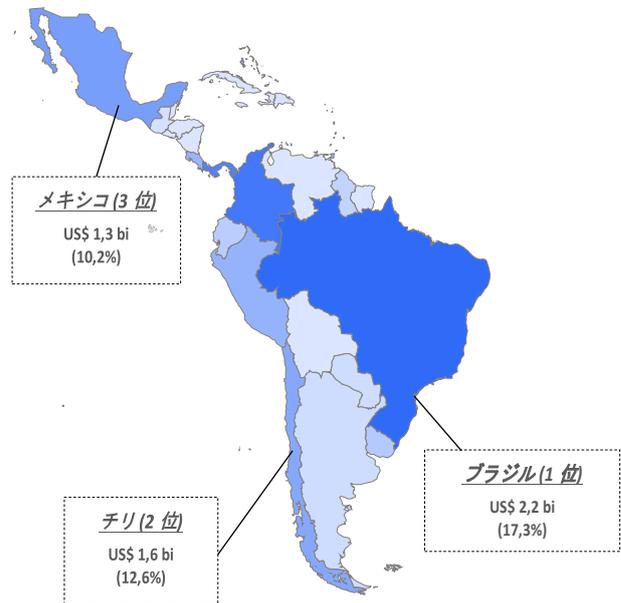
出典: UNCTAD - 日本の対外直接投資（IED）の残高（2014年から2023年、米ドル兆円）

マップ7 - 日本からのラテンアメリカへの対外直接投資（IED）の流れ（2023）

日本からの対外直接投資（IED）の流れに関して、2023年に日本銀行（BOJ）は25.8兆円（約1838億米ドル）の流出を報告しました。

日本から送られた投資の主な行き先は、**米国**（37.2%）、**オーストラリア**（9.7%）、**イギリス**（7.2%）でした【この分析は資本の即時の行き先を考慮しており、最終的な行き先は考慮していません】。ラテンアメリカおよびカリブ海の国々は、この流れの約**6.9%**（127億米ドル）を受け取りました。

**ブラジル**は、地域への流れの合計の**17.32%**（約22億米ドル）が投資された主要な行き先となり、2023年における日本の対外直接投資の**主要な目的地となりました**—ケイマン諸島とイギリス領バージン諸島の二国を除いています（マップ7）。



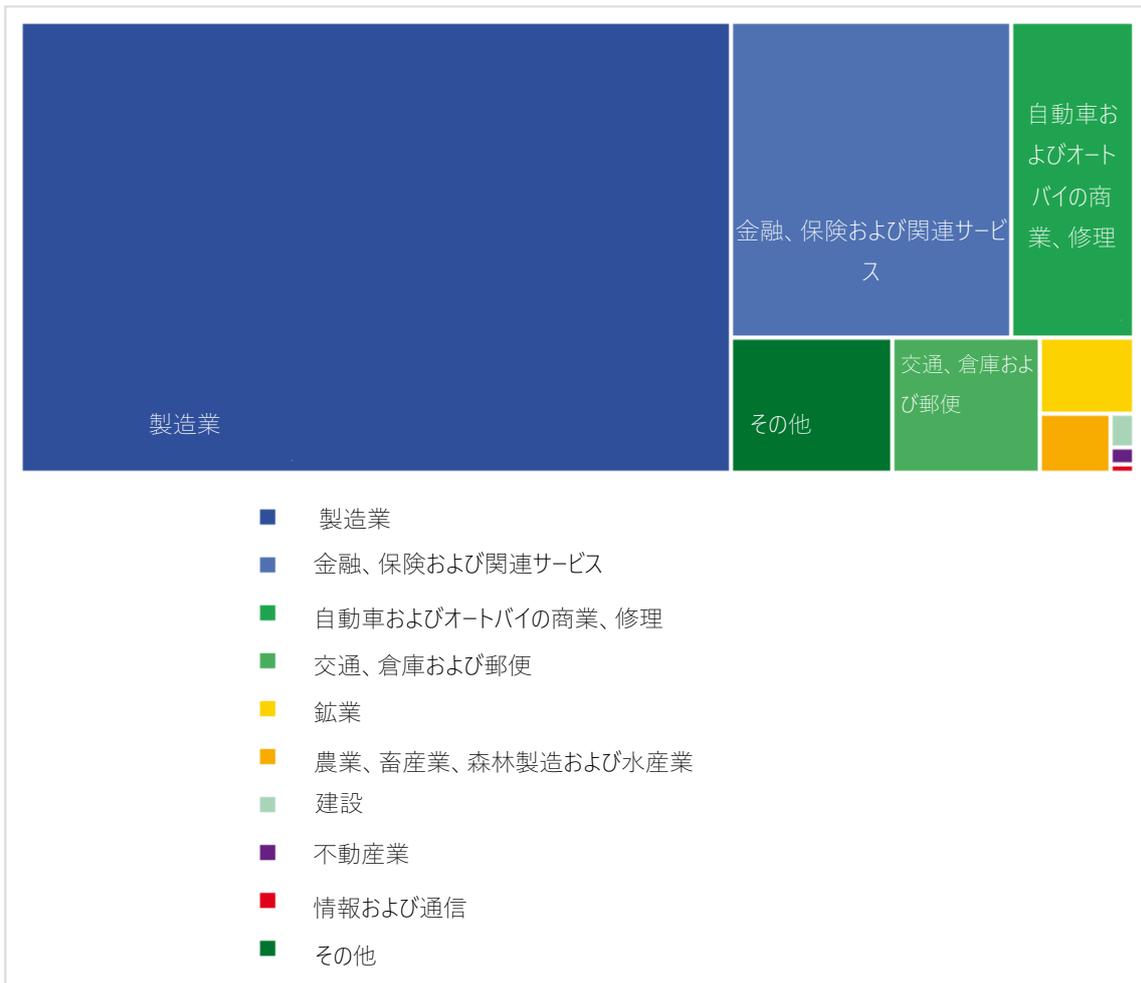
出典：BANK OF JAPAN (BOJ).

前述のように、日本のブラジルにおける生産的投資は重要であり、ブラジル経済における割合も活発です。BCBのデータによると、2022年に日本はブラジルにおける対外直接投資（IED）の合計で**295億米ドル**を最終的に制御しており、これは国内のIED合計の**2.9%**に相当します。日本はブラジルにおけるIEDの**第10位のストック**を持ち、アジアの投資国としては中国に次ぐ第2位です。この合計のうち、285億米ドル（96.5%）は株式資本に、10億米ドル（3.5%）は企業間取引に割り当てられています。

2022年のブラジルにおける日本の株式資本投資のストックに関しては、160億米ドルが**製造業**に（56%）、44億米ドルが**金融業、保険および関連サービス**に（16%）、19億米ドルが**自動車およびオートバイの商業・修理**に（7%）、そして27億米ドルがその他の活動に（21%）割り当てられています。これらのデータは、BCBの2023年の対外直接投資レポートに基づいています（グラフ18）。

<sup>17</sup>この分析では、資本の最終目的地ではなく、直接の目的地が考慮されています。

グラフ 18 – 日本のブラジルにおける対外直接投資（IED）、主要な活動 –  
最終コントローラーのストックにおける資本割合, 2022



出典: BCB. 注: 活動はCNAEセクションに従って記載されています。

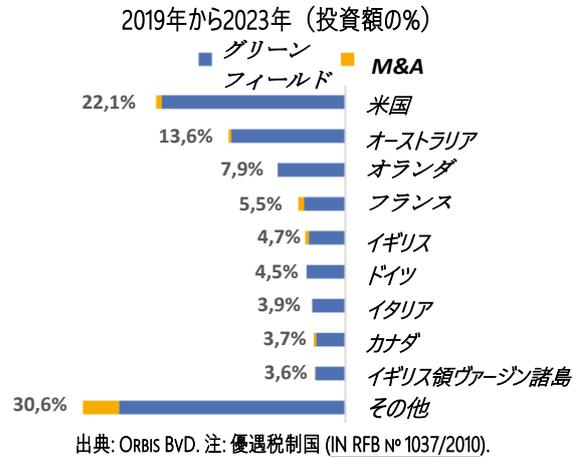
### 3.4.3 ブラジルにおける投資発表

Orbis BvD のデータベースは、過去 5 年間にブラジルで発表または完了した外国企業による 1627 件のグリーンフィールドプロジェクトと 267 件の合併・買収 (M&A) を特定しており、推定額は 3834 億米ドルに達しています。これらの発表の大部分は、欧州諸国やアメリカ合衆国からのものでした (グラフ 19 参照)。

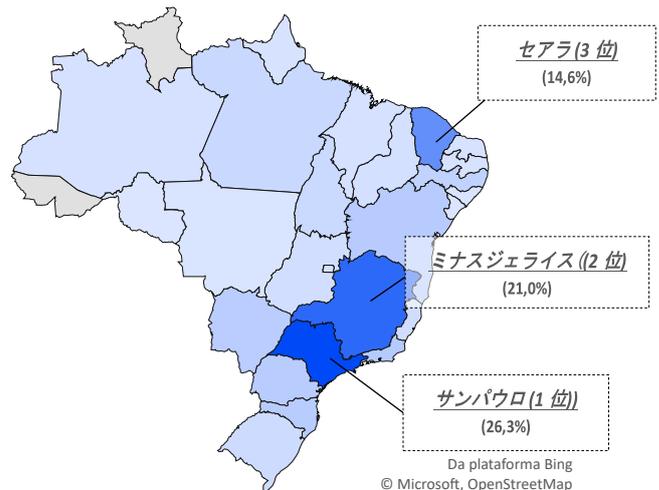
また、外国直接投資 (FDI) の明らかな集中が州レベルでも見受けられ、2019 年から 2023 年の間にグリーンフィールドプロジェクトのために発表された金額の 62% が 3 つの州に集中しています (マップ 8 参照)。

発表の数に関しては、サンパウロ州が 710 件でトップに立ち、次いでミナスジェライス州が 151 件、セアラ州が 43 件でした。その中で、セアラ州はこの期間にブラジルが受け取った最大の 2 件の発表も含まれています。

グラフ 19 – ブラジルにおける対外直接投資 (IED) の主な出所、



マップ 8 – ブラジルにおける対外直接投資 (IED)、州別 – グリーンフィールドプロジェクト、2019年から2023年 (投資額の%)



出典: ORBIS BVD 注: 1,578件のプロジェクトに対するデータが利用可能です。そのうち、82件 (約74億米ドル) は投資の行き先の州を明示していません。

ブラジルの化学産業の注目プロジェクトとしては、ペセム (CE) における2件のオーストラリアのグリーン水素製造プロジェクト (フォーテスキュー・フューチャー・インダストリーズとエネルギー・エナジー) があり、推定11億2000万米ドルの規模です。自動車産業においては、ノヴァ・リマ (MG) にあるアメリカのプロジェクト (ブラボ・モーター・カンパニー、44億米ドル) が目立ち、さらにベチム (MG) ではオランダのプロジェクト (ステランティス、29億米ドル)、イラセマポリス (SP) では中国のプロジェクト (グレート・ウォール、19億米ドル) が注目されています。

<sup>18</sup>Orbis BvD は、グリーンフィールドプロジェクトの95%、発表されたM&A取引の28%の取引額を推定しました。

### 3.4.4 ブラジルにおける日本の投資発表

Orbis BvDのデータベースによれば、日本は2019年から2023年の間にブラジルで発表されたグリーンフィールドプロジェクトのうち65件を占め、推定額は32億9000万米ドルとなっています。これにより、日本はブラジルでのグリーンフィールド発表の中で2.3%のシェアを持ち、10位にランクされています。この順位は実効ストックにおける位置と似ています。

ブラジルにおける日本の投資が最も多かったセクターは、製造業（投資額の83%、つまり「キャパックス」）、地域本社（「Regional Headquarters」）（8%）、および物流、流通、輸送（5%）です（表11参照）。

表 11- ブラジルにおける日本のグリーンフィールド投資（2019-2023年、セクター別）

セクター/業界	プロジェクト数	Capex (百万米ドル)	(%) do Capex
製造	30	2,721,51	82,8%
地域本社	5	260,16	7,9%
ロジスティクス、流通および輸送	4	178,11	5,4%
営業所	12	47,79	1,5%
鉱業	1	30,00	0,9%
商業サービス	3	17,79	0,5%
銀行および金融	1	11,14	0,3%
小売	7	9,19	0,3%
研究開発センター	1	7,54	0,2%
教育およびトレーニング	1	2,00	0,1%
合計	65	3,285,23	100%

出典：ORBIS BvD.

ブラジルにおける日本のグリーンフィールド投資の中で、最大の投資額はトヨタのソロカバ（SP）工場の拡張で、推定3億4100万米ドル（2023年）です。また、住友（ダンロップ）のファゼンダ・リオ・グランデ（PR）にあるタイヤ工場が推定2億460万米ドル（2021年）、さらに日清のポンタ・グロッサ（PR）にあるパスタ工場の開設が推定2億290万米ドル（2023年）となっています。

また、2019年から2023年の間に日本のグリーンフィールド投資の発表は、ブラジルで11,000以上の直接雇用を生み出した可能性があります。

企業の合併・買収（M&A）に関しては、2019年から2023年の間にブラジルで日本資本による**6件**の発表があり、推定**2億1900万米ドル**に達しました。これにより、日本はブラジルへのブラウンフィールド発表の中で**0.65%**のシェアを持ち、**12位**にランクされています。したがって、**日本はこの期間にブラジルで最も多くの合併・買収を行ったアジアの国となりました。**

この期間における日本資本のブラウンフィールド投資の最大額はソフトバンクによるもので、2019年にインターバンクの持ち株を8.1%から14.9%に引き上げるために、推定2億1900万米ドルを投資しました。なお、発表されたすべての投資がOrbis BvDのデータベースでその金額を公開しているわけではないことに注意が必要です。

### 3.4.5 インフラにおける日本の FDI

Fitch Connect のデータベースによれば、日本は 2019 年以降、ラテンアメリカにおいて **39 件のインフラプロジェクト**の資金提供、後援、または運営を行っています。

表 12 – 日本のラテンアメリカにおけるインフラへの対外直接投資（IED）  
主要な目的地、2019-2023 年

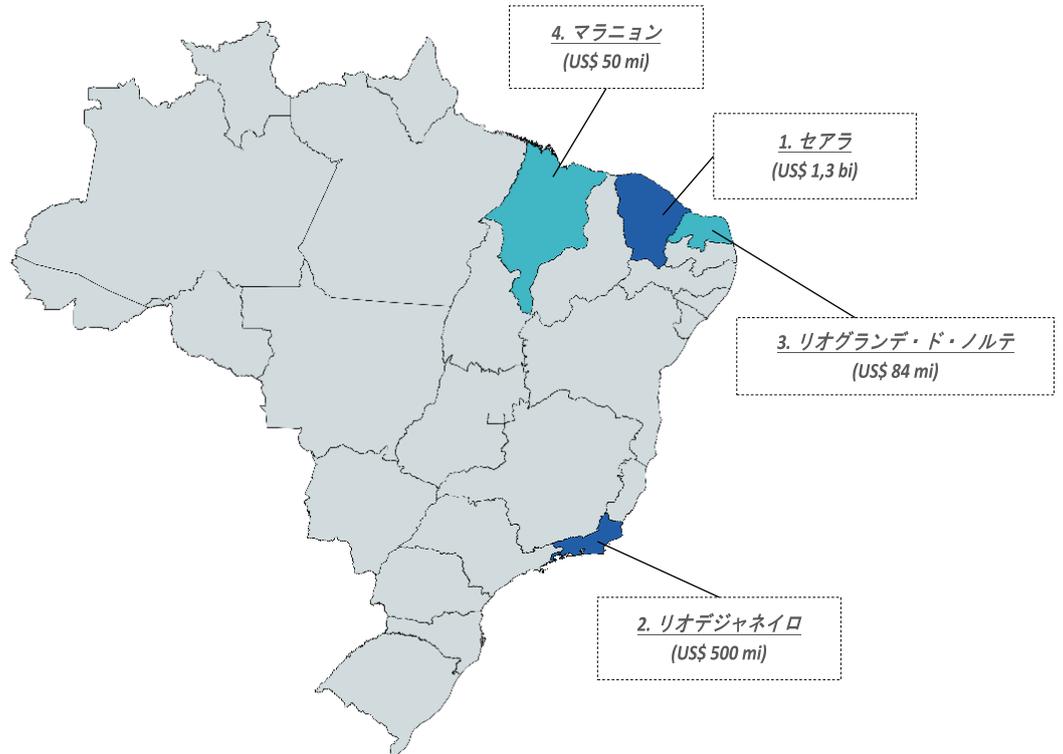
国	プロジェクト数	Capex (百万米ドル)
パナマ	3	2,844,0
チリ	3	1,350,0
<b>ブラジル</b>	<b>6</b>	<b>965,0</b>
コスタリカ	4	771,0
ニカラグア	4	441,0
パラグアイ	5	343,0
エクアドル	1	250,0
エルサルバドル	1	160,0
アルゼンチン	1	127,0
メキシコ	1	100,0
ペルー	3	39,0

グアテマラ	4	-
ボリビア	3	-
コロンビア	1	-
総合計	39	7,390,0

出典： FITCH CROSSBORDER INVESTMENT.

Fitch Connect によれば、日本は 2000 年以降、ブラジルのインフラプロジェクトにおいて 6 件の資金提供を行っています。それは、マラルおよびテラサンタの風力発電所（RN）、マルリム・アズールガス発電所（RJ）、イタキ港の穀物ターミナル（MA）、ポントンの太陽光発電所（CE）、およびポルトセムの火力発電所（CE）です。これら 5 つのプロジェクトの総推定価値は 9 億 6500 万米ドルです。

#### マップ 9 – ブラジルにおける日本の対外直接投資（IED）州別 – インフラ事業 2019-2023 年



出典： FITCH.

### 3.4.6 ブラジルにおける日本企業

ブラジル中央銀行は、2020年にブラジルで操業している日本企業の数 が 491 社であると報告しています。この数字は、2015年の510社と比較して減少していますが、2010年の359社と比べると増加しています。

日本企業によるブラジルでの投資に関して、Orbis BvD は 2019 年から 2023 年の間に 175 件のグリーンフィールドプロジェクトと 62 件の合併・買収（M&A）を持つ 108 社の日本企業をリストアップしています。この期間中、ブラジルでのグリーンフィールド投資において最も大きな額を持つ日本企業は以下の通りです。

表 13 – ブラジルにおけるグリーンフィールドプロジェクトを持つ日本企業 – 2019-2023 年

国	プロジェクト数	Capex (百万米ドル)
<i>NIPPON SHEET GLASS CO., LTD</i>	12	862,9
<i>TOYOTA MOTOR CORPORATION</i>	7	840,0
<i>SUMITOMO ELECTRIC INDUSTRIES LTD</i>	1	204,6
<i>NISSIN FOODS HOLDINGS CO., LTD</i>	1	202,9
<i>HONDA MOTOR CO., LTD</i>	2	199,9
<i>NIPPON TELEGRAPH &amp; TELEPHONE CORP</i>	3	142,1
<i>CANON INC.</i>	2	138,2
<i>MARELLI HOLDINGS CO., LTD</i>	3	131,1
<i>DAIICHI SANKYO CO., LTD</i>	1	80,0
<i>ITOCHU CORPORATION</i>	1	73,8
<i>MITUTOYO CORPORATION</i>	1	65,7
<i>KOMATSU LTD</i>	2	63,3
<i>TAMURA CORPORATION</i>	1	63,1
<i>BRIDGESTONE CORPORATION</i>	1	52,4
<i>MODEC INC.</i>	1	44,1

出典：ORBIS BvD.

さらに、最近の『Valor Econômico』新聞のランキング「Valor 1000」では、2022年においてブラジルの1000大企業の中に日本資本を持つ企業が9社ランクインしています。

表 14 – ブラジルの 1000 大企業にランクインした日本企業 – 2022 年

順位	企業名	業界	本社	純収入 (R\$Million)
57	ホンダ	自動車および部品	サンパウロ	22.395,5
202	イハラ	化学および石油化学	サンパウロ	6.017,4
268	セニブラ	紙およびパルプ	ミナスジェライス	4.334,4
306	住友化学	化学および石油化学	セアラ	3.741,4
325	MGB	農業ビジネス	サンパウロ	3.453,4
331	ブラジル味の素	食品および飲料	サンパウロ	3.389,8
468	サンテル	紙およびパルプ	サンパウロ	2.133,6
497	古河電工	電子機器	パラナ	1.961,1
521	パナソニック	電子機器	サンパウロ	1.869,2
	<b>合計</b>			<b>77.708,7</b>

出典: パロール・エコノミコ新聞 – ブラジルの1000大企業ランキング – 基準年: 2022年.

最近のメディアで見つかった投資発表を考慮すると（2024年）、日立エナジーは、グアルーリョスにある工場の拡張とブラジルに新たな生産施設を建設するために、今後4年間で12億レアルを投資することを発表しました。また、製薬会社の大日本住友製薬（Daiichi Sankyo）は、バルエリ（SP）の工場の生産能力を倍増させるために、約4億2000万レアルの投資を行うことを発表しました。

### 3.4.7 ブラジルにおける日本企業の事例

ブラジル企業と日本企業との間の外国直接投資に関するビジネス慣行を示すために、本研究ではブラジルにおける日本企業の存在を強調し、これらの投資の成功事例を示します。

企業名: トヨタ・ド・ブラジル

業種: 自動車およびエンジンの製造



#### トヨタの概要

80 年以上の歴史を持つトヨタは、その効率的なビジネスモデルと生産性向上のための不断の努力で知られています。これは、従業員の献身によって、国のエネルギー源を含む地元の文脈に適したモビリティソリューションを提供することを目的としています。ブラジルでは、トヨタは 65 年以上にわたり存在感を確立し、プロセスと製品の継続的な改善に注力し、尊重の原則と社会への貢献を重視しています。国内のオペレーションは、サンパウロ州のインディアチューバ、ソロカバ、ポルト・フェリスの各市に位置しています。

66 年の歴史の中で、6,000 人以上の従業員の支援を受けて、トヨタは高品質の製品を提供し続けているだけでなく、ブラジルの経済的および社会的発展にも大きく貢献しています。世界初のハイブリッドフレックス車であるカローラ（2019 年）とカローラクロス（2021 年）は、効率的で競争力のある車両として市場に投入され、2022 年および 2023 年におけるブラジルからの輸出リーダーシップの要因の一つとなりました。

#### 投資

トヨタがブラジルを投資先として選んだのは、さまざまな戦略的および歴史的要因に基づいています。トヨタはブラジルにおいて常に投資を行っており、地元および地域市場での地位を強化し、オペレーションを加速させるための野心的な計画を持っています。トヨタの初の海外工場は 1962 年にブラジルのサンベルナルド・ド・カンポに設立されました。

トヨタの主要な焦点は、ブラジルの文脈と消費者のニーズに適応した新技術を通じて脱炭素化を推進することです。この動きは、持続可能なモビリティの促進と炭素排出の削減という企業のグローバルなビジョンと一致しています。トヨタの決定にとって重要な要因は、ブラジルにおける電動化車両の部品供給チェーンの発展可能性

です。国内への投資はこのチェーンの成長を促進し、ブラジルだけでなく南米全体での脱炭素化プロセスを支援します。これは、ブラジルを電動化車両の生産と輸出の戦略的ハブとして確立し、ブラジルから輸出される製品を受け取る 22 カ国を超える市場へのトヨタのプレゼンスを拡大することにつながります。

2024 年 3 月、トヨタはブラジルにおける最大の投資を発表しました。2030 年までに 110 億レアルを投資し、車両とエンジンの生産、新しいモデルの導入、特に国内で開発された先駆的なハイブリッドフレックス技術を備えた新しいコンパクトハイブリッドフレックス車の生産（2025 年予定）を含む計画です。また、同技術でブラジル向けに特別に開発された別のモデルも計画されています。この発表に伴い、約 2,000 の直接雇用の創出が言及されており、間接雇用を含めると、全体の生産チェーンで約 10,000 の雇用機会を生み出すことが期待されています。

最後に、これらの投資により、トヨタの工場は常に拡張されており、現在は国内外での電動化車両の需要が高いため、フル稼働しています。

最近の戦略的投資		
2012	ソロカバ工場の開設	R\$ 1Billion
2015	ソロカバでの製造拡大	R\$ 100Million
	スアペ (PE) での CD の開設	R\$ 2,4Million
2016	ポルトフェリス (SP) 工場の建設	R\$ 580Million
	SBC リボーンプロジェクト	R\$ 70Million
	ポルトフェリス (SP) 工場の拡張	R\$ 600Million
2017	ヤリスの製造	R\$ 1,6Billion
2018	インディアチューバ (SP) 工場の近代化	R\$ 1Billion
2019	ゴラクロスの製造	R\$ 1Billion
2022	インディアチューバ (SP) 工場の近代化	R\$ 50Million
2023	新しいコンパクトハイブリッドフレックスモデルの製造発表	R\$ 1,7Billion
	ソロカバ (SP) 部品の物流センターの建設	R\$ 160Million
2024	ソロカバ工場の拡張と新しいハイブリッドフレックスモデルの発表	R\$ 11 Billion
合計		R\$ 19,2 Billion

## 製造

製造 TDB	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (YTD May)
IDT	63.444	47.308	54.534	58.394	56.974	18.249
SOR	124.432	68.656	116.846	165.772	155.411	56.741
合計	187.876	115.964	171.380	224.166	212.385	74.990

## 輸出

輸出 TDB	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (YTD May)
Corolla	7.426	9.623	12.420	15.992	14.356	4.782
Cross	-	-	16.782	37.372	31.372	13.963
Etios	17.283	13.411	17.657	26.532	22.030	0
Yaris	6.977	7.510	11.770	16.444	14.093	7.652
合計	16.126	30.544	58.629	96.340	81.851	26.397

## 販売

販売 TDB	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (YTD May)
Etios	33.263	14.017	2.810	15	4	-
Yaris	66.711	37.759	33.567	42.402	43.912	17.663
Corolla	56.708	40.158	41.900	42.894	42.927	13.313
Corolla Cross	-	-	34.253	42.510	42.074	17.606
RAV4	3.161	3.220	817	1081	991	1.042
Prius	853	51	3	0	0	-
Hilux	40.355	32.395	45.884	48.594	46.938	18.396
SW4	14.012	10.284	13.641	13.724	15.270	6.179
Camry	144	13	8	16	35	20
GR Corolla	0	0	0	0	61	22
合計	215.207	137.897	172.883	191.236	192.212	74.241



企業名: Mitsui & Co. (ブラジル)

業種: エネルギー、石油・ガス、鉱業、輸送・物流、食品と小売、金属・鋼、農業、デジタルトランスフォーメーション

## ブラジルにおける活動の歴史

Mitsui & Co.は、ブラジルでの長い発展の歴史を持っています。「ブラジルバスサン輸入輸出株式会社」は、MitsuiBrasilの前身で、1960年に設立されて以来、私たちのビジネスは大きく成長しました。

1960年代後半から1970年代にかけて、日本企業のブラジルへの拡張が最高潮に達した時期に、Mitsui & Co.はブラジルでのビジネスを拡大し、Companhia Vale do Rio Doce (CVRD) から鉄鉱石の輸入を開始しました。その後の数十年にわたり、Mitsui & Co.は肥料、コーヒー、その他の製品の取引を続けました。

2003年には、Mitsui & Co.はCVRDの親会社であるValeparに15%の出資を行いました。2000年代と2010年代には、ブラジル経済の成長に伴い、天然ガスの流通ビジネス (Mitsui Gás)、エネルギーサービス (Ecogen)、水力発電 (Jirau)、およびモビリティ (MRCLA、VLI) の事業を買収することで、国内ビジネスが拡大しました。

近年では、ポストパンデミックの状況やビジネス環境における地政学的変化、消費者習慣の変化に伴い、Mitsui & Co.はポートフォリオを多様化し続けており、動物健康製品 (Ourofino Saúde Animal)、バイオ農薬製造業者 (Certis Biologicals)、食品流通 (Kronos)、化粧品 (TBP、Dinamica) などの分野に投資しています。

## 投資先としてブラジルを選んだ理由と将来の展望

ブラジルは穀物、肉、パルプ、鉱物資源の重要な供給国であり、再生可能エネルギー源から約90%の電力を供給することで、エネルギー供給国としての大きな可能性を持っています。さらに、環境意識の高まりとともに、グリーン経済における機会が増加しています。

2億人以上の若い人口と高いデジタル化の水準を持つブラジルには、多くの革新に対する才能ある人材が存在しており、消費市場としての成長が期待されています。

農業部門は一貫して成長しており、アマゾンの保護はブラジルの政策、経済、貿易、外交において優先事項の

一つとなっています。ブラジルは2025年に開催されるCOP 30に焦点を当て、環境政策の強化や、カーボンクレジット市場の規制、国の水素計画など、環境政策とグリーン政策の強化に取り組んでいます。これにより、公共部門と民間部門の連携が促進され、経済の活性化が図られています。

#### 財務データまたはその他の関連情報

- 現在、私たちは100,000以上の雇用を生み出す30以上の企業に出資しています。
- Mitsui Gásは、13州のガス流通企業に出資しており、ブラジルで市場シェア第2位の企業です。
- MRCLAは、ブラジルで貨物用車両のレンタルにおいて第1位の企業で、8,500両以上の車両を賃貸しています。
- Jirau水力発電所は、ブラジルで第4位の電力生成事業者で、設置容量は3750MWです。
- Albrasは、年間460,000トンの一次アルミニウムを生産する能力を持ち、これはブラジルの生産量の40%以上に相当します。



企業名: Cloud Ace Ltda.

ブラジルにおける業種: ソフトウェア開発コンサルティングサービス、クラウドソリューションに特化。

## ブラジルにおける活動の歴史

Cloud Ace Ltdaは、Google Cloudに特化したソリューションを提供する日本の先駆的企業であり、2023年にブラジルにCNPJを設立することで、グローバル展開戦略において重要な一歩を踏み出しました。この登録後、2024年1月に正式にブラジルでの業務を開始しました。このマイルストーンは、ブラジルにおける私たちの存在を正式化するために、スケールアップ・プログラムの一環として達成されました。私たちのブラジルでの活動は比較的新しいものですが、堅実な基盤を築き、ブラジル市場における主要プレーヤーとしての地位を確立することに注力しています。

私たちが到着して以来、地元市場との接続と可視性を高めるために多くの取り組みを行っています。すでに、小売業界の重要なプレーヤーと共同でプロジェクトを開始し、業務を最適化し顧客体験を向上させるために生成AIなどの革新的なソリューションを活用しています。さらに、ウェビナー、スタートアップセンターでのイベント、展示会への参加、デジタルマーケティングチャネルを通じてサービスを宣伝しています。私たちの目標は、アジアでの成功を再現することです。アジアでは、Googleとの強力なパートナーシップを確立し、大規模なイベントでダイヤモンドスポンサーとして認められています。ブラジルのコンテキストに適応した同様の献身と戦略で、同様の成果を達成できると確信しています。

## 投資先としてブラジルを選んだ理由と将来の展望

私たちは、広大な市場と経済成長の可能性を考慮してブラジルを投資先として選びました。ブラジルは大きな人口を持ち、経済成長が見込まれており、私たちのようなテクノロジー企業にとって魅力的な市場です。さらに、ブラジルにはGoogleのデータセンターがあり、「Google for Startups」プログラムが強く注力され

ています。私たちはGoogleのパートナーとして、Googleが投資している地域のビジネスをサポートしたいと考えており、ブラジルはその戦略的地域の一つとして際立っています。

ブラジルでの将来の展望は非常に明るいものです。ターゲットを絞ったマーケティングキャンペーンや戦略的パートナーシップを通じて、さらなる拡大を計画しています。私たちは、Googleからの資金やプロジェクトに関する貴重なリファレンスの形でのサポートを得ることで、Googleの包括的な販売およびエンジニアリング能力を提供することにコミットしています。私たちの目標は、Google ブラジルとの相互に有益な協力関係を構築し、両者がブラジル市場で新たな高みに到達することです。

私たちは、直面するであろう課題に対処し、成功を確保するために必要に応じて戦略を調整する準備ができています。卓越性へのコミットメントと戦略的アプローチを通じて、ブラジル市場でのリーダーとしての地位を確立し、地元企業のデジタルトランスフォーメーションに大きく貢献できると信じています。

**財務データまたはその他の関連情報** 従業員数: 7人

## 3.5 日本の外国直接投資（FDI）

### 3.5.1 日本における位置とフロー

BOJのデータによれば、2023年に日本は**214億米ドル**の外国直接投資（FDI）を受け入れました（表15参照）。この金額は2022年に対して**34%**の減少、2021年に対しては**36.8%**の減少を示していますが、2014年から2020年（COVID-19パンデミック以前の期間）に記録された流入額を上回っています。これは、日本における外国投資の再加熱を示唆している可能性があります。

表15 – 日本へのIED流入（2014年～2023年、米ドル億）

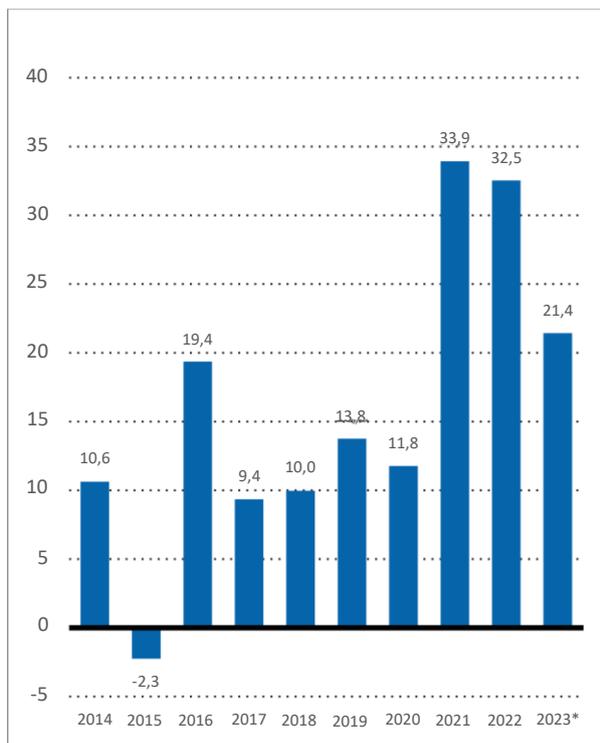
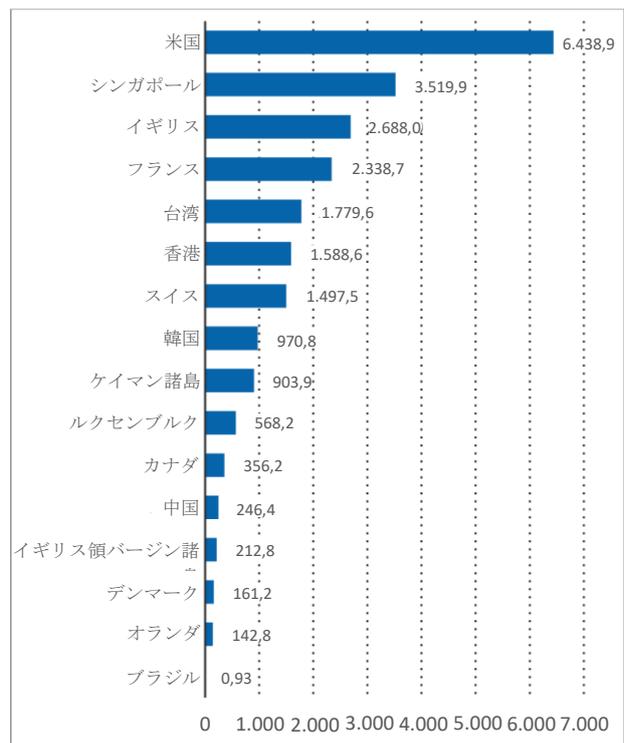


表16 – 日本へのIEDの資本源国別流入（2023年、米ドル億）



出典: 日本財務省; 日本銀行 (BOJ)

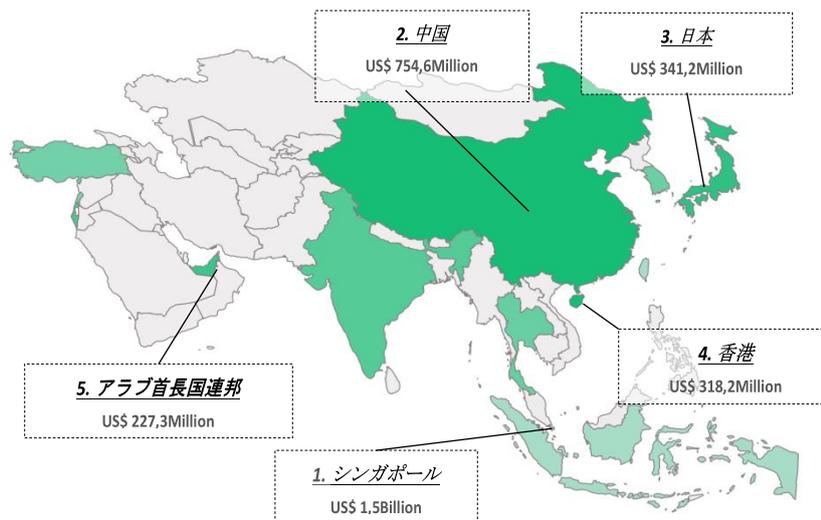
表16に示されているように、2023年における日本への投資流入の主要な発信国は、アメリカ合衆国、シンガポール、イギリスでした。日本銀行（BOJ）は、ブラジル資本による外国直接投資（FDI）の流入を1億3000万円（100万米ドル未満）として記録しており、これは日本におけるFDIの流入の0.1%未満を占めていました。これにより、ブラジルはその年の日本への投資流入の主要な発信国の中で**41位**に位置づけられました。

BCB によれば、ブラジルは 2023 年末時点で世界に向けて送られた外国直接投資（FDI）のストックが **4913 億米ドル**であり、89%が資本参加への投資に、11%が関連会社間取引に割り当てられていました。

ブラジルの FDI の主要な行き先は、オランダ（19%）、英領バージン諸島（15%）、およびケイマン諸島（15%）でした。

BCB は 15 か国のアジア諸国に関するデータを公開しており、これらの国はこのストックの 0.8%（約 **36 億米ドル**）を占めています（マップ 10 参照）。アジアにおいて、日本はブラジルの資本参加の投資の第 3 の主要な行き先であり、3412 万米ドル（ブラジルの世界におけるストックの 0.07%またはアジアに発表されたストックの 9.5%）を占めています。

マップ 10 – ブラジルのアジアにおけるIED – ストック (2022年、米ドル)



出典: BCB.

BCBは、2023年に日本に資本参加の投資を持つブラジルの投資家が**31人**いることを記録しました。これは、海外におけるブラジルの投資家の総数**26,400人**の中の一部です。

<sup>19</sup>UNCTADとBCBのIEDストックの値は、計算方法の違いにより異なります。

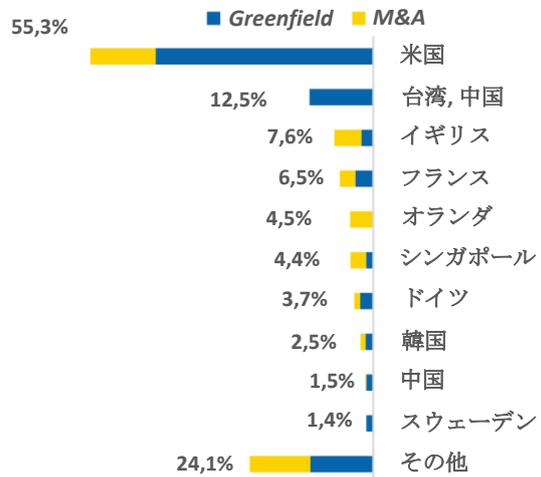
<sup>20</sup>地図は Excel/Bing ソフトウェアによって自動的に生成され、地図生成ツールによって設定された国境は必ずしもブラジル政府の立場を反映しているわけではありません。

### 3.5.2 日本における投資発表

Orbis BvD は、2019 年から 2023 年の間に日本で外国企業によって発表または完了した 881 件のグリーンフィールドプロジェクトと 412 件の合併・買収（M&A）を特定しており、これらの合計は 533 億米ドルに達しています。

アメリカ合衆国は、日本におけるグリーンフィールドの外国直接投資の主要な発信国であり、推定 240 億米ドルの発表がありました。次いで、台湾、イギリス、フランスがそれぞれ 100 億米ドルを超える発表を行っています（グラフ 20 参照）。

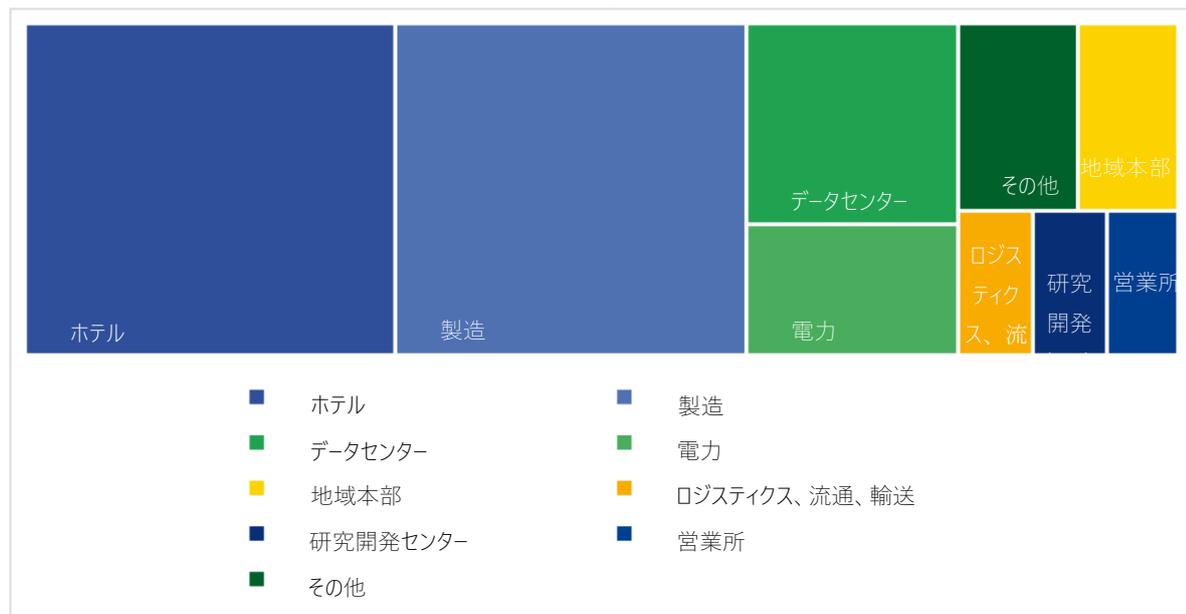
グラフ 20 – 日本における対外直接投資（IED）の主な出所 – 発表、2019年から2023年



出典: ORBIS BvD.

日本の経済活動の中で、2023年に最も多くの外国直接投資（FDI）を受けたのは宿泊業で、期間中のグリーンフィールドプロジェクトの発表総額の32%を占めました。その他の注目すべきセクターには、製造業（30%）、データセンター（11%）、電力（7%）があります。

グラフ21 - 日本におけるセクター別グリーンフィールド投資発表（百万米ドル、2019年～2023年）

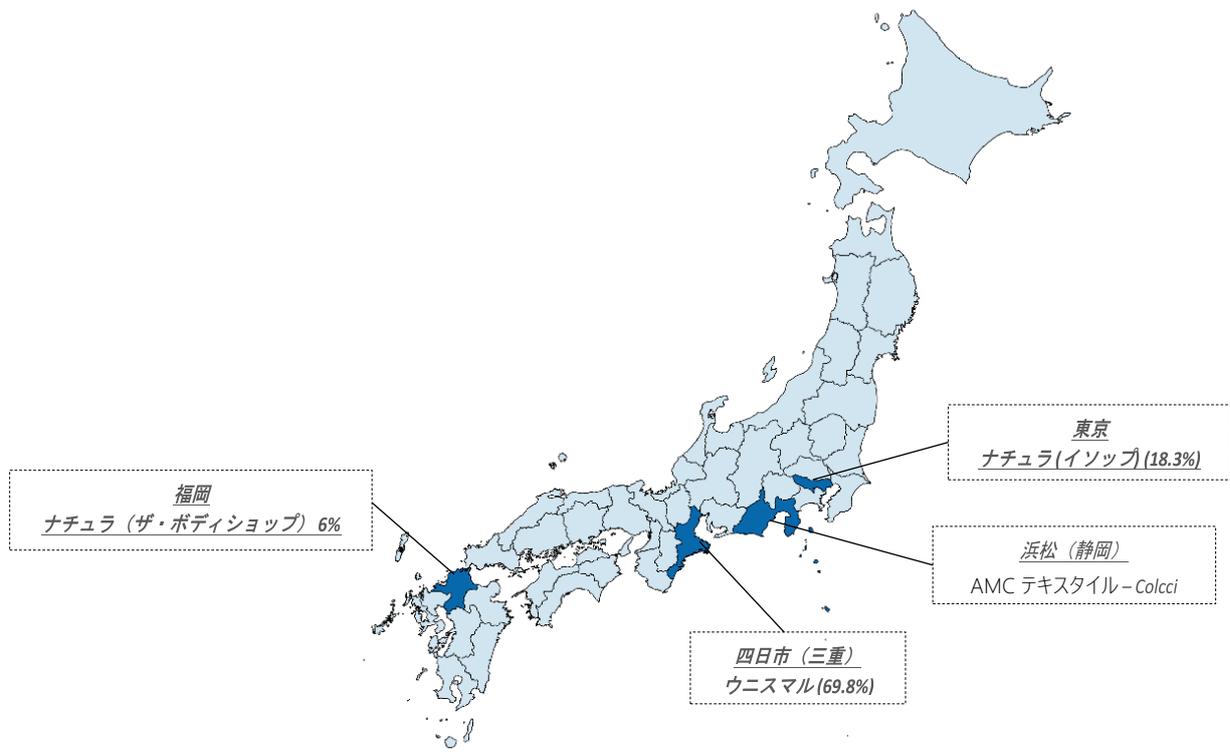


出典: ORBIS BvD.

### 3.5.3 日本におけるブラジルのグリーンフィールド投資発表

ブラジル資本による日本でのグリーンフィールド投資の発表に関して、ORBIS BVDは2019年から2023年の間に6件のプロジェクトを記録しており、総額は約2190万米ドルと見積もられています。その中で最大のプロジェクトは、2020年にユニセスマールが四日市市に開設した遠隔教育（EAD）センターで、投資額は約1250万米ドルで、70件の直接雇用を創出しました。

マップ11 - 日本におけるブラジルの外国直接投資（FDI）、地区別（「都道府県」） - グリーンフィールドプロジェクト、2019年～2023年（百万米ドル）



出典: ORBIS BVD. MAPA: MAPCHART.NET.

さらに、2019年から2023年にかけて、ナチュラホールディングから東京にAESOPブランドの店舗が新たに開店し、既存の店舗が移転されました。この投資額は約270万米ドルです。また、当時ナチュラグループの所有であったTHE BODY SHOPの店舗も福岡にオープンし、投資額は130万米ドルとなりました。最後に、AMCテキスタイルは2019年に浜松にColcciブランドの店舗を開店し、こちらの投資額も130万米ドルと見積もられています。

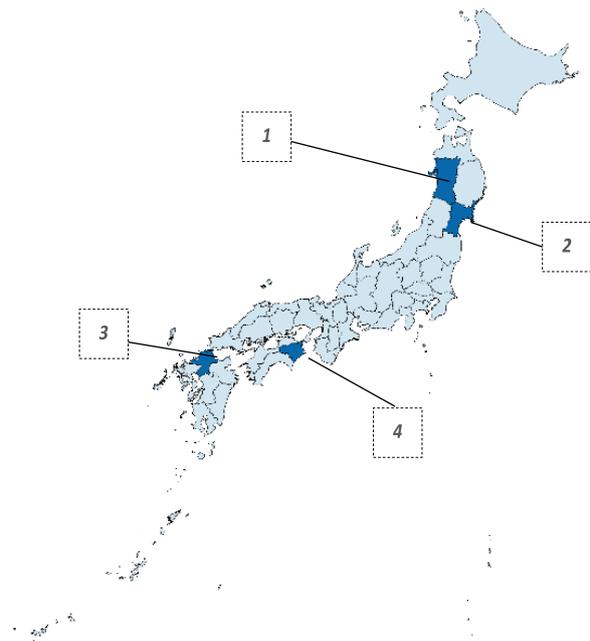
### 3.5.4 日本におけるインフラ FDI

インフラプロジェクトへの投資に関して、FITCHのデータベースは、2000年1月から2024年7月までの間に、日本で外国企業によって後援、共同後援、または運営されている322件のインフラプロジェクト（完了または建設中）を特定しています。

これら 312 件のプロジェクトの中で、ブラジル資本による資金提供を受けたものは 4 件です：

1. 秋田県由利本荘の洋上風力発電所 – レノバエネルギー（37 億米ドル）。  
完工予定：2029 年。
2. 宮城県石巻市のバイオマス発電所 – レノバエネルギー（3 億 6800 万米ドル）。  
完工予定：2023 年。
3. 福岡県宮若市のバイオマス発電所 – レノバエネルギー（3 億 1500 万米ドル）。  
完工予定：2021 年。
4. 徳島県津田のバイオマス発電所 – レノバエネルギー（金額未公表）。  
完工予定：2023 年。

マップ12 - 日本におけるブラジルの外国直接投資 (FDI)、地区別 - インフラプロジェクト、2019年～2023年 (百万米ドル)



### 3.5.5 日本におけるブラジル企業の事例

ブラジル企業と日本企業との間の外国直接投資（FDI）の実務を示すために、本研究では、成功した投資事例を示すために日本におけるブラジル企業の存在を強調します。

企業名: Vale



業種: 鉱業（物流およびエネルギー分野にも展開）

**日本における活動の歴史:** Vale と日本は長年のパートナーシップを築いており、歴史的に日本はブラジルの鉄鉱石輸出の主要な行き先の一つです。定期的な販売の開始は 1955 年に正式に確立され、2025 年には日本との正式な関係が 70 年を迎えます。

注目すべきは、エスピリトサント州ビトリアのチュバロン港が、日本の鉄鋼業界の企業との提携により Vale によって建設されたことです。チュバロンの稼働は、1967 年に長期的な鉄鉱石の大規模輸出契約を日本の製鉄会社と締結する上で重要な役割を果たしました。

鉱山・鉄道・港の統合により、競争力のある価格で日本に鉄鉱石を販売することが可能となり、長期契約の締結は日本を同社の主要な市場の一つとして確立しました。1967 年には、日本は当時の Companhia Vale do Rio Doce (CVRD) の鉄鉱石輸出の約 21% を消費しました。さらに、日本はカラジャス鉱山からの初めての輸出荷を受け取った国でもあります。1985 年 4 月 30 日には、カラジャスからの最初の 3 万 1 千トンの鉄鉱石がブラジルを出発し、日本の港に向かいました。

現在、Vale と住友商事は三重県の松坂にあるニッケル精製所でパートナーシップを結んでいます（Vale が 87.2%、住友が 12.8% の出資比率）。この精製所は、中間ニッケル製品として年間 60,000 メトリックトンの処理能力を持ち、精製ニッケル製品としては 30,000 メトリックトンの処理能力を持ち、インドネシアからのニッケルマットを処理してニッケル酸化物を生産し、その後、アジアおよび英国の精製所でさらに加工されます。

**国際化の年および海外の事業所の所在地:** 1967 年から、Vale は三重県の松坂市にあるニッケル精製所を運営しています。また、1984 年には東京に商業オフィスも開設されました。

**意思決定の追跡:** 1950 年代、当時の Companhia Vale do Rio Doce (CVRD) は市場の多様化政策を強化しました。世界的な展開を目指すために、急成長する日本の鉄鋼業界を支えるために、輸出能力の拡大を追求しました。

財務データまたはその他の関連情報: 2023 年の日本における Vale の営業収益は 32 億米ドルで、Vale 全体の営業収益 417 億米ドルの中で、日本は同社の第 2 の国際市場として位置付けられています。



添付

## 方法論注記

本研究の第 3 章（二国間外国直接投資）の分析は、ブラジル中央銀行（BCB）が外部セクターに関連する国民経済データの管理に適用する方法論に基づいています。この方法論は、国際通貨基金（IMF）の [BPM6](#)（*国際収支および国際投資ポジションマニュアル第 6 版*）および経済協力開発機構（OECD）の [BD4](#)（*外国直接投資の基準定義第 4 版*）に従っています。

提示された分析を理解するには、外国直接投資（FDI）という概念に関連する 3 つの重要な定義を理解する必要があります。まず、「直接投資」とは、受け取る企業の管理に対して重要な影響力または支配権を行使できる金融資源の移転を指します。BPM6 によれば、これは投資家が企業または投資ファンドの議決権を持つ資本の少なくとも 10%を保有している場合に発生します。**投資家**は、資源を受け取る企業に資金を移転する「即時投資家」（団体、政府、または個人）である場合も、**最終的な投資の支配者**（すなわち、影響力または支配権を行使する団体、政府、または個人）である場合もあります（直接投資の関係）し、または別の投資家（同じ支配者の別の企業や子会社）である場合もあります（間接関係）。この第三者の企業や他の子会社は、受け取る企業および最終的な支配者が居住する国や税務管轄区域とは異なる国に所在する場合があります、金融ハブが資源の三角トレードで重要な役割を果たし、FDI の即時的な発信元として際立っています。

次に、「外国直接投資」（FDI）が発生するのは、ブラジルの**居住者と非居住者**の間での金融仲介がある場合です。これらの仲介の流れの方向は、外国企業のブラジルへの FDI（「ブラジルへの FDI」または単に「FDI」）があるか、あるいはブラジル企業の海外への FDI（「ブラジルの FDI」）があるかを決定します。流れの方向は、データが**粗いか正味**かも決定します。本研究では、「正味 FDI」という用語を、特定の期間における資源の流入と流出（以前の投資の再パトリオテーション）との差を示す結果として使用し、「粗 FDI」という用語は、資源の流入のみ（ブラジルの海外 FDI を考慮する場合は流出）を示します。BCB は異なる用語を使用しています。

第三に、居住者と非居住者の間での影響力や支配権の行使を伴う金融資源の仲介は、特定の方向性において 2 つの分類に分けられます：資本参加および関連会社間取引です。BCB によれば、資本参加の投資は「議決権を持つ資本を含み、これは直接投資関係の存在を定義し、議決権を持たない参加がある場合も含む」とされ、関連会社間取引には「同じ経済グループの企業間での債務手段による貸付が含まれます」。第三者（同じ経済グループに属さない）からの貸付やその他の債務手段は、直接投資とは見なされないことに注意が必要です。さらに、いくつかの情報源は「利益の再投資（資本参加として）」というサブコンポーネントを明示しており、これは FDI を受ける企業が海外の親会社に送金しない利益に相当します。

これらの概念を理解することで、金融仲介を FDI として分類することが可能になります。特定の期間にわたって国を通過する仲介の集合は、流れとして集約されることがあります（現在のデータ）。一方、時間の経過とと

もに蓄積された資産（つまり、海外における国の金融資源）および負債（国における外国資源）は、FDI から生じる投資のストックを構成します。ただし、流れの結果だけではストックの変動を生み出すわけではありません。市場価格の変動（投資資本または受け取る企業の価値の増加）や為替変動（企業の受け取るポートフォリオの相対的な価値の上昇または下落、つまりそのバランスシートが国内通貨で表示されているため）もこの指標に影響を与えます。したがって、ストックデータは「ストックポジション」として評価され、特定の日付（通常は年末）におけるストックの推定像となります。このように、流れのデータとストックのデータを比較することはできません。

---

<sup>23</sup> BCB は、本研究で「ブラジルにおける世界からの純直接投資」と呼ばれるものに対して、直接外国投資（IED）の定義を採用しており、使用される用語が異なります。BCB は、IED を国内直接投資（IDP）の構成要素として捉えており、これは特定の期間内に国に流入するすべての金融資産を含み、すでに国に資産を持つ企業が行った「逆投資」を差し引きません。ブラジルの海外投資については、BCB は、本研究で「ブラジルの純直接投資」と呼ばれるものに対して、ブラジル直接投資（IBD）の定義を採用しており、IBD を海外直接投資（IDE）の構成要素として捉え、特定の期間内にブラジル人によって海外に投資された資源の再送金は差し引きません。BCB の用語を使用しない選択は、分析の理解を簡素化することを目的としています。

<sup>24</sup> BCB によれば、資本持分への投資は、「直接投資家が直接投資企業の資本を増加または減少させる資本化およびデキャピタリゼーションの取引、ならびに直接投資家が投資先企業の既存の持分を購入または売却する合併および買収の取引」に関連するものを含みます。一方、社内取引による投資は「貸付金、...商業信用、債券およびその他の金融商品」を指します。

<sup>25</sup> 他の方法論的な詳細も、特に国間での在庫比較を考慮する際に在庫に影響を及ぼす可能性があり、たとえば、在庫が計上される年の定義などが含まれます。



apexBrasil

JETRO

EMBAIXADA DO  
**BRASIL**

駐日ブラジル大使館

ブラジル  
外務省

開発  
商工  
貿易  
サービス省

ブラジル政府  
**BRASIL**

団結と再建

ApexBrasil

CNC ビジネスセンター  
SAUN、クアドラ05、ブロックC、第2タワー、  
1201号室から1701号室  
CEP 70040-250 – ブラジリア、DF、ブラジル

apexbrasil@apexbrasil.com.br

www.apexbrasil.com.br



/apexbrasil

